

外部評価
自己点検評価書
(2021年度実施)

2021年11月

サレジオ工業高等専門学校

外部評価

自己点検評価書

2021年11月
サレジオ工業高等専門学校

- ・自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・（複数チェック■可）と記載のある項目は、該当する箇所に、それぞれチェックを入れること。
- ・自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号を記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、当該ページを印刷した資料（該当資料名、資料番号を記入）及びそのURLを欄中に貼付すること。
なお、観点4-1-④はURLのみ、観点4-3-①は別紙様式のみとすることも可とする。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。
（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）
記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字程度を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。
また、根拠資料の資料名、資料番号を記入すること。
- ・根拠資料のみでは、内容が伝わりにくい場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄もしくは根拠資料内に簡単な補足説明を加えること。
- ・関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(施)学校教育法施行規則、(設)高等専門学校設置基準

2021年度 サレジオ工業高等専門学校外部評価「自己点検評価書」
サレジオ工業高等専門学校内部質保証6方針を元にした活動：自己点検評価まとめ

観点0	基本方針（DP）に基づく活動	副校長
機関別認証評価基準1：教育の内部質保証システム		
内部質保証システムの構築は、前回の機関別認証評価における改善事項を受け2016年度よりディプロマ・ポリシーの見直しから着手し、2019年度に教学の内部質保証としてまとめられた。2020年度より運用開始予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け2021年度からの開始となっている。このため、自己点検・評価も含めて運用実績に関しては十分とは言えず、今後継続的な活動をする必要がある。また、点検・評価の際に必要な各種データ（アンケート、議事録 etc.）の組織的な収集も十分ではなく、早急に整備する必要がある。		
観点1	FDの方針に基づく活動	副校長
機関別認証評価基準2：教育組織及び教育・教育支援者等		
本校のスタッフ・ディベロップメント（FD）は、「職員の教育業務（学生と直接関わる業務）の質向上を目指して、必要とされる能力を開発・向上させるための研修等の活動」と定義され、一般に言われるFDよりも広い範囲となっている。その目的は「教職員が本校の建学の精神、教育理念・目的を理解し、質の高い教育を実践するために必要とされる能力の開発・向上」を行うことである。この目的に照らして、年1回組織的な研修会を実施し、また、2週間に1度開催される教職員会議にて、本校の教育理念についての講習を行っている。		
観点2	学生支援の方針に基づく活動	学生主事
機関別認証評価基準3：学習環境及び学生支援等		
学生支援は、全ての学生が安心して学校生活を送ることができ、卒業・修了後に社会で活躍する場を得ることができるように支援を行うことを目的（狙い）とする。本校が行う学生支援活動は、「①修学支援活動」・「②学生生活支援活動」・「③キャリア支援活動」からなる。提出資料を証拠に本学生支援活動を達成していると評価する。 「①修学支援活動」については、専攻科・準学士課程各科・プレテック・各種センターを中心に、学習支援・学習相談・資格取得支援の活動をしている。 「②学生生活支援活動」については、専攻科・準学士課程各科・プレテック・学生会・事務部教務学生課・各種センターを中心に、経済的支援・健康増進・課外活動・生活相談の活動をしている。 「③キャリア支援活動」については、専攻科・準学士課程各科・キャリアセンターを中心に、キャリア形成支援・就職支援・進学支援の活動をしている。		
観点3	教育課程編成・実施の方針に基づく活動（準学士課程）	教務主事
機関別認証評価基準5：準学士課程の教育課程・教育方法		
機関別認証評価基準7：準学士課程の学習・教育の成果		

カリキュラムポリシーにもとづき各学科の教育課程が編成され、講義で学んだ知識項目を学生自ら手を動かして学修できるよう講義と演習・実験実習の授業時間をバランスよく配置されていることを確認した。また、授業計画（シラバス）作成や進級・卒業認定に関する方針や規則が整備されており、教育の質を担保する一助となっていることを確認した。本校では、ディプロマポリシーで定める最低限の能力を必修科目および必修選択科目だけで学修できるよう設計されているものの、ディプロマポリシーと各学科の学習・教育到達目標の対応が最新のものに更新されていないことや各目標の到達水準について決められていないことなど質保証の上で不十分な点もある。そのため、卒業生は必修科目および選択必修科目の単位を取得しているものの、どの程度の水準でディプロマポリシーの能力を身につけているか把握できていない。さらに、授業科目の単位取得状況だけでなく、進学・就職先による卒業生の評価など多様で多面的な評価の視点も欠けている。その結果として、教育の質を担保するためのPDCAが不完全で教育の改善は組織的ではなく限定的となっている。

観点4 入学者受入れの方針に基づく活動（準学士課程）

副校長

機関別認証評価基準6： 準学士課程の学生の受入れ

アドミッション・ポリシーに基づき、様々な入学者選抜方法を実施している。アドミッション・ポリシーに示された学生像に沿った学生が入学しているかについては、入学時点でのデータからおおよそその目的は達成していると考えている。ただし、退学者数が多い現状を考えると、受け入れた学生が卒業時にどのように成長したかという長期的な視点に立った入学者分析も今後は必要になると思われる。

観点3 + 4 教育課程編成・実施の方針および入学者受入れの方針に基づく活動（専攻科課程）

専攻科長

機関別認証評価基準8： 専攻科課程の教育活動の状況

カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が編成・実施されることを狙い、カリキュラム・ポリシーを基に教育課程表を編成し、それを基に授業形態や指導方法を設定している。また、これらは教育の成果についての自己点検として、シラバスに設けられたチェック欄や達成度チェックシートを用いており、ディプロマ・ポリシーに従った修了認定が適切に実施されていると判断できる。なお、カリキュラム変更方法やそれを点検するシステムについては今後検討する必要がある。

入学者の受け入れがアドミッション・ポリシーに沿って適切に行われることを狙い、学力試験や面接試験により、アドミッション・ポリシーに書かれた資質（基礎学力、主体性、論理的思考、技術者としての姿勢、コミュニケーション能力に対する総合的な評価）について判定するなど、適切な入学者選抜方法が設けられている。また、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかどうかの検証方法として、成績票や達成度チェックシートを用いて検討を行っており、適切な入学者選抜が行われているものと判断できる。

観点5 研究活動支援の方針に基づく活動

専攻科長

機関別認証評価基準8： 専攻科課程の教育活動の状況

教員の研究力の向上、教育の質の改善を狙い、外部資金獲得に向けた研究準備金（課題研究費）や研究日（裁量日）を設けている。また、研究経験の少ない教員に対し、論文執筆の場として研究紀要を用意し、学生の学外発表に対する資金援助を行うなど、種々な研究推進体制を設けている。さらに、外部資金獲得に向けた勉強会や研究倫理を学ぶ取り組みなどを設けており、研究を円滑に行えるようにサポートしている。以上より、教員は基本的な研究活動を行うことができている。

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	サレジオ工業高等専門学校
2. 所在地	東京都町田市小山ヶ丘4-6-8
3. 学科等の構成	準学士課程：デザイン学科 電気工学科 機械電子工学科 情報工学科 専攻科課程：生産システム工学専攻
4. 認証評価以外の 第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：生産システム工学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：生産システム工学専攻） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 (評価実施年度の5月1日現在) 2021年5月1日現在	学生数：836人 教員数：専任教員22人 助手数：0人
(2)特徴	
<p>(1)沿革 本校は、ローマカトリック教会において青少年教育を目的として事業を始めた聖人ヨハネ・ボスコ（伊1815-1889）によって創設されたサレジオ修道会が、全世界に展開している1700余校の1つとして、昭和10年同会チマッティ神父らによって東京育英工芸学校として設立された。 以来幾多の変遷を経て、昭和38年に育英高等専門学校を開設し、印刷工学科、電気工学科、工業意匠学科を設置した。昭和42年工業意匠学科を工業デザイン学科と改称、昭和50年校名を育英工業高等専門学校と改称、印刷工学科をグラフィック工学科に、英語名をIkuei Technical College から Salesian Polytechnicと改称した。平成2年電子工学科、情報工学科を新設し5学科各1学級体制とした。平成7年から1,2年次の混成学級編成を開始した。平成9年グラフィック工学科をビジュアル情報工学科、工業デザイン学科をデザイン工学科に名称変更、平成13年専攻科生産システム工学専攻を開設した。平成17年校地を東京杉並から町田に移転、校名をサレジオ工業高等専門学校と改称した。平成20年電子工学科を機械電子工学科に、平成21年デザイン工学科をデザイン学科に名称変更した。</p>	
<p>(2)建学の精神 創立者ヨハネ・ボスコの精神に基づき、健全な青少年を育成するために、彼らが善き社会人となることを目標とする。それは技術を通して人類社会に貢献できる人間を育てることであり、社会の華やかな舞台だけではなく、聖書の言葉である「地の塩・世の光」に象徴される見えないところで大地を支える岩塩のように、あるいは周りを照らす灯台の光のように、社会を支え、人々を幸せにする技術者になることを勧める。全世界に姉妹校をもつ本校は平成17年サレジオ大学連合IUSの工学部門に連なり、人類社会という世界に開かれた視野を持つ実践的技術者を育成する。また創立者の精神である、常に学生の目線で接する「アシステツァ」という寄り添う教育を実践する</p>	
<p>(3)教育理念（校是） 本校は、理念（校是）を聖書から引用した。「神は愛なり」はヨハネ4章7節から神の人類に対する無限の愛を、「真理は道なり」はヨハネ3章21節から真理こそ神に至る道と述べられている。また日本人技術者の先達である丹羽保次郎（1893-1975）が技術はそれに携わる人間によるという意味で「技術は人なり」と言われ、これはマタイ22章39節にも隣人をも自分のように愛することというキリスト教の教えに通じる。ゆえに我らは人類に幸福をもたらす技術を目指す。昭和50年に校是を定め、現在これを基に教育目的、教育目標、学科目的と目標を展開して養成すべき人材像を定めた。</p>	
<p>(4)特色ある教育 本校の理念から「神は愛なり」の実践として世界に開かれた視野をもつ人間を育てたいと考え、低学年の異文化交流、語学研修、高学年の海外研修旅行、欧州視察、海外ボランティア活動などを通じて学生に国際交流の機会を多く提供している。「技術は人なり」の実践として特に倫理教育に力を入れ、1年次に教える「倫理」、現代社会に必須の「情報倫理」、3年次の「倫理」、5年次の「技術者倫理」と4科目6単位を配している。また低学年の指導に配慮して混成学級編成やそれを担当するプレテック制度など様々な局面で「モノづくり」の前提として「ヒトづくり」を心がけている。正規授業及び課外授業の中でより高度な問題解決型課題にチャレンジすることでチームによる開発作業や研究発表を経て机上の理屈だけではない実践的、専門的技術者を養成している。 「真理は道なり」の実践の一つとして新入生教育において「表現」という科目を設定し、内外の図書館やインターネット環境を活用しつつ、高度な専門教育を受ける前に勉強の基本能力である、「調べる」、「読む」、「書く」、「話す」のスキル向上を目指し、技術を支える基礎学力の向上に努めている。</p>	

II 目的

1. 本校の目的

本校は学校教育法により、深く専門の学芸を教授し、高度の工業専門教育を施し、カトリック・サレジオ修道会の教育理念に基づいて国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養い、個性の確立伸長に努めることを目的とする。(本校学則第1条)

2. 準学士課程各学科の目的

2-1 デザイン学科の目的

早期教育によって幅広くデザイン能力を磨き、高度な専門性、国際性、人間性をもつ、善きデザイナーを養成することを目的とする。(デザイン学科規程第2条)

2-2 電気工学科の目的

本学科は、電気工学の基礎知識及び技能と技術を修得し、それらを実践的な課題に応用できる技術者を養成することを目的とする。(電気工学科規程第2条)

2-3 機械電子工学科の目的

本学科は、電子工学分野と機械工学分野を教授し、機械・電子複合技術を意識した技術者育成を行い、人間性、創造力、コミュニケーション力を有した技術者の養成を目的とする。(機械電子工学科規程第2条)

2-4 情報工学科の目的

問題を発見し、情報技術 (ICT) を効果的に使用して解決する。これからの社会ではこれは極めて重要である。本学科はこのような認識のもと、情報工学を中心とした基礎工学を教育することにより、社会が要求する情報技術の素養をもつ人材を養成することを目的とする。(情報工学科規程第2条)

3. 専攻科の目的

専攻科は、高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた者に対し、さらに専門的な分野について精深な教授を行い、自ら新しい分野を開拓できる能力を有する、実践力のある開発型技術者を養成することを目的とする。(本校学則第37条)

4. 研究活動の目的

本校の教育目的を達成するために、

- ① 教育内容の充実および水準の向上 (学術研究等の実施による教員／学生の研究能力や資質向上)
 - ② 教育方法の改善や教育効果の向上 (教育に関する研究の実施による特色ある教育等の考案や実施)
- を図ることを目的として研究活動を行っている。

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

Ⅲ 基準ごとの自己評価等

機関別認証基準 1 教育の内部質保証システム

<p>評価の視点</p> <p>【重点評価項目】</p> <p>1-1 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。</p>
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。</p>
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育の活動を中心とした学校の教育研究活動の総合的な状況についての自己点検・評価の実施方針、実施体制、実施項目を分析するための観点であり、重点評価項目として位置付けている。（改善への取組については1-1-④で分析する。） ○ 定期的に行うということは、7年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。 ※「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。 ○ 実施方針とは、趣旨、実施時期、実施方法、評価結果の外部検証等が定められている学校内の規程を想定している。 ○ 実施体制には、委員会や担当部署のほか、自己点検・評価における責任の所在を明記していること。なお、実施体制の「組織図」等があれば提示すること。 ○ 自己点検・評価の基準・項目には、機構の高等専門学校評価基準を活用することや、必要に応じて独自の評価の項目を設定している場合も想定される。 ○ 実施体制、評価の基準・項目等は、実施方針の中で一体的に策定している場合も想定される。

関係法令（法）第109条（施）第166条（設）第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。 ■ 定めていない	◇実施の方針が明示されている規程等 資料1-1-①-(1)-01「サレジオ工業高等専門学校自己点検・評価の方針」 資料1-1-①-(1)-02「教学の内部質保証について」	体制については、資料1-1-①-(1)-02のP.4（赤枠）を参照	
(2) (1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備している ■ 整備している	◇実施体制等がわかる資料（組織構成図、関連規程等） 資料1-1-①-(2)-01「サレジオ工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則」		
(3) (1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか ■ 設定している	◇自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料（関連規程等） 資料1-1-①-(3)-01「サレジオ工業高等専門学校自己点検・評価の方針」		再掲

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

--	--	--	--

【重点評価項目】
観点1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。

【留意点】

- 根拠となるデータや資料等とは、教育の状況について自己点検・評価を行うに当たり必要な教育活動に関する基礎的な資料のことで、本評価書の右欄に明示された各種資料を想定している。自己点検・評価に活用できるように体系的に整理しているかを分析すること。より体系的に実施するため、データブック等の策定や、I R（インスティテューショナル・リサーチ）活動として実施している場合も考えられる。
- 定期的に行うということは、7年以内ごとに実施する機構の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。
 ※「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。（1-1-①の留意点の再掲。）
- 設定した自己点検・評価の基準・項目に基づいて、点検（分析）・評価されていること。（1-1-①(3)と関連。）

関係法令（法）第109条（施）第166条（設）第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。 ■ 収集・蓄積している	◇収集・蓄積状況がわかる資料 <u>資料1-1-②-(1)-01「点検評価データ一覧」</u>		
	◇担当組織、責任体制がわかる資料 <u>資料1-1-②-(1)-01「点検評価データ一覧」</u>		再掲
(2) 自己点検・評価を定期的実施しているか。 ■ 実施している	◇自己点検・評価報告書等、実施状況がわかる資料（何年ごとに実施しているかわかる資料も含む。） <u>資料1-1-②-(2)-01「自己点検・評価の実施状況」</u>		
	◆何年ごとに実施しているかを明確にしつつ、現在の実施頻度が適切かどうか、データや資料を活用して行われているかについて、資料を基に記述する。 機関別認証評価は7年ごと、第3者評価(JABEE)は3年ごと、また外部評価は平均8年ごとに実施しており、全体では約2年に1度実施している。また、どの自己点検・評価もエビデンスや資料に基づいて行われている。		
(3) (2)の結果を公表しているか。 ■ 公表している	◇公表状況がわかる資料 <u>資料1-1-②-(3)-01「HP 外部有識者による本校の評価について」</u> <u>資料1-1-②-(3)-02「HP 自己評価等」</u>		

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

--	--	--	--

【重点評価項目】

観点1-1-3 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。

【留意点】

- 学校の構成員及び学外関係者の意見を聴取する方法、内容、実施状況等についての分析を含め、聴取した意見がどのような形で教育の状況に関する自己点検・評価に反映されているか分析すること。
- 特に学外関係者からの意見聴取は、準備等に時間がかかることが想定されるため、計画的な実施が望まれる。
- 「第三者評価」とは、評価対象機関とは独立した第三者組織によって選定された評価者・評価項目等によって行われる評価を指す。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（複数チェック■可） ■ 教員 ■ 職員 ■ 在学生 ■ 卒業（修了）時の学生 ■ 卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生 ■ 保護者 ■ 就職・進学先関係者	◇各意見聴取の実施状況がわかる資料（実施方法、回数、意見内容の例、アンケート結果集計表等。）	教員の意見は年2回行われる教員評価の際に部署長が聞き取っている。また、各種会議、委員会のメンバーからの意見として聴取しているが資料としてまとめられていない。職員の見解は事務組織単位、各種会議、委員会の各メンバーからの意見として聴取しているが資料としてまとめられていない。	
	<u>資料1-1-3-(1)-01「授業改善要望書」</u>	授業アンケート（年1回実施）、授業改善要望（年間数件）、達成度自己評価アンケート（年1回）を実施している。	
	<u>資料1-1-3-(1)-02「授業アンケート集計サンプル」</u>		
	<u>資料1-1-3-(1)-03「達成度自己評価アンケートサンプル」</u>		
	<u>資料1-1-3-(1)-04「DP達成度アンケート」</u>	ディプロマ・ポリシーの達成度アンケートを卒業・修了時に実施している。	
		過去（7年前）に行われた実績はあるが定期的には実施されていない	
		過去（7年前）に行われた実績はあるが定期的には実施されていない	
	◇自己点検・評価結果報告書等の該当箇所		
(2) 自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（複数チェック■可） 【在学生の意見聴取】 <input type="checkbox"/> 学習環境に関する評価 <input type="checkbox"/> 学生による授業評価 <input type="checkbox"/> 学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価） <input type="checkbox"/> 学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価） <input type="checkbox"/> その他 【卒業（修了）時の意見聴取】	◇各評価結果等を踏まえて自己点検・評価が行われていることを示す報告書等の該当箇所	授業評価は毎年実施しており、その結果より改善等の指示はされているが、自己点検・評価報告書には記載されていない。達成度自己評価アンケートは毎年実施しているが、その結果を自己点検・評価報告書には記載していない。	

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

<input type="checkbox"/> 卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価 <input type="checkbox"/> 卒業（修了）時の学生による満足度評価 <input type="checkbox"/> その他		ディプロマ・ポリシーの達成度アンケートは毎年実施しているが、その結果を自己点検・評価報告書には記載していない。	
【卒業（修了）後の意見聴取】 <input type="checkbox"/> 卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価 <input type="checkbox"/> その他	資料1-1-3-(2)-01「自己評価書抜粋」	2015年の機関別認証評価における自己評価書赤枠部分	
【外部評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者の検証 <input checked="" type="checkbox"/> 教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）	資料1-1-②-(3)-01「HP 外部有識者による本校の評価について」 資料1-1-②-(3)-01「HP 外部有識者による本校の評価について」 資料1-1-②-(3)-02「HP 自己評価等」	02.学校が独自に行う外部有識者による評価（外部評価）部分 機関別認証評価については資料1-1-②-(3)-01の01.高等専門学校の認証評価（第三者評価）部分 JABEEについては、資料1-1-②-(3)-02	再掲 再掲
<input type="checkbox"/> 設置計画履行状況調査 <input type="checkbox"/> その他	◆その他の項目をチェックした場合は、当該評価の内容を記述するとともに、上記◇と同様に該当箇所を明示すること。		

【重点評価項目】
観点1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

- 改善・向上のための組織体制には、委員会や担当部署のほか、改善・向上の取組のための責任の所在が明確になっていること。組織図等があれば提示すること。
 1-1-①-(2)と同じ組織体制を充てる場合であっても、自己点検・評価の実施と改善・向上の取組の両方の役割をそれぞれ明確に規程等で整理できているかを分析すること。
- 第三者評価等とは、機構が実施する機関別認証評価や、JABEE（日本技術者教育認定機構）によるJABEE認定プログラムの認定、機構が実施する特例適用専攻科の認定等のほか、第三者評価ではない、自己点検・評価の外部有識者による検証を含み、外部者が検証・評価した結果等の全てを想定しており、そこで指摘された改善事項等への対応を事例として想定している。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備されている	◇実施体制がわかる資料（組織相互関連図、関連規程、議事録、活動記録等） 資料1-1-④-(1)-01「教学の内部質保証について」	体制については、資料1-1-④-(1)-02のP.4（赤枠）を参照	再掲

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

サレジオ工業高等専門学校

<p>(2) 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 対応している 	<p>◇対応状況がわかる資料</p> <p>資料1-1-④-(2)-01「対応協議議事録」</p> <p>資料1-1-④-(2)-02「対応状況表」</p> <p>資料1-1-④-(2)-03「試験問題点検結果」</p> <p>資料1-1-④-(2)-04「サレジオ工業高等専門学校自己点検・評価」</p> <p>資料1-1-④-(2)-05「教学の内部質保証について」</p>	<p>対応方針を協議した自己点検評価委員会議事録および協議結果を報告した校長・副校長・自己点検評価本部長連絡会記録および対応表</p> <p>資料1-1-4-(2)-02①の対応結果。</p> <p>資料1-1-4-(2)-02③、④の対応結果。</p> <p>資料1-1-4-(2)-02③、④の点検項目・水準について。</p>	<p>再掲</p>
<p>(3)(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 改善に向けた取組を行っている 	<p>◇自己点検・評価結果報告書や第三者評価等の該当箇所</p> <p>資料1-1-4-(3)-01「JABEE指摘事項」</p> <p>◇評価結果を受けた改善の取組がわかる資料</p> <p>資料1-1-4-(3)-02「カリキュラム表（改善前）2015年度シラバスより抜粋」</p> <p>資料1-1-4-(3)-03「カリキュラム表（改善後）2017年度シラバスより抜粋」</p> <p>資料1-1-4-(3)-04「追加された修了要件 履修の手引きより抜</p>	<p>指摘を受けて、出身学科に対して他分野科目がどれなのかを教育課程表に明示し、必ず他分野科目を修得することをプログラム修了要件に加えた。</p>	
<p>評価の視点</p> <p>1－2 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。</p>			

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

（準学士課程）
観点1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

- ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。
- 「卒業の認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ中段の三つのポリシー相互の関係、同6ページのディプロマ・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。
- 教育する立場からみた教えるべき内容ではなく、教育を受ける側（＝学習者＝学生）の立場に立って「何を身に付け、何ができるようになったか」という学習の成果が明確にわかる、具体的な内容となっていることを分析すること。
- 学校教育法施行規則第172条の2第1項第1号の規定により学校の目的を、高等専門学校設置基準第3条の規定により学科ごとの目的を、それぞれ定めることが義務付けられており（本評価書のⅡ目的に記載するもの。）、それぞれの目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、内容的に齟齬がないなど整合性を有していることを分析すること。
- 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で一つのポリシーを定めることや、学科ごとに定めることが考えられるところであり、学校・学科の目的や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。

関係法令（法）第117条（施）第165条の2（設）第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条
 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（複数チェック■可）	◇策定した卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）		
■ 準学士課程全体として定めている	資料1-2-①-(1)-01「卒業・修了認定の方針（ディプロマ・ポリシー）HP」		
□ 学科ごとに定めている	資料1-2-①-(1)-02「デザイン学科の学習・教育目標（シラバス抜粋）」		
□ その他	資料1-2-①-(1)-03「電気工学科の学習・教育目標（シラバス抜粋）」		
	資料1-2-①-(1)-04「機械電子工学科の学習・教育目標（シラバス抜粋）」		
	資料1-2-①-(1)-05「情報工学科の学習・教育目標（シラバス抜粋）」		

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

<p>(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）と整合性を有しているか。</p> <p>■ 整合性を有している</p>	<p>準学士課程の卒業・修了認定の方針に述べられている身につける能力は、さらに各学科の学習・教育目標へとブレイクダウンされ、各学科の目的に沿った具体的な内容となっている。</p>		
<p>(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。</p> <p>■ 示している</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>		

観点1-2-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

- 【留意点】**
- ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。
 - 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ中段の三つのポリシー相互の関係、同6ページのカリキュラム・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。
 - 特に、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は学校教育法施行規則第165条の2第2項において、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有して定めることが求められていることから、両ポリシーの内容が整合的であることを分析すること。
 - 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体又は学科ごとに定めることが想定されるところであり、学校・学科の目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。（卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と策定単位が一致していることが原則であると想定されるが、各高等専門学校の判断で策定単位を一致させていないことも想定されることから、整合性を分析する際には、形式に留まらず内容的整合性を分析することが求められる。）
 - （3）の選択肢のうち、「その他」以外のものについては、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に必ず含むものとして想定している。

関係法令（施）第165条の2（設）第15条、第16条、第17条第7項、第17条の2
「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（複数チェック■可）</p> <p>■ 準学士課程全体として定めている</p> <p>□ 学科ごとに定めている</p>	<p>◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p><u>資料1-2-②-(1)-01「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）HP」</u></p>		

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

□ その他			
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■ 整合性を有している	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		
(3)教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（複数チェック■可） ■ どのような教育課程を編成するかを示している ■ どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■ 学習成果をどのように評価するかを示している □ その他	◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。		

観点1 - 2 - ③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

- ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ中段の三つのポリシー相互の関係、同6ページのアドミッション・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で1つのポリシーを定めることが考えられるが、学科ごとに定めることも可能である。
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」と「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」の両方を定めているかを分析すること。
なお、受け入れる学生に求める学習成果として、「学力の3要素」に沿った成果の内容が明示されていることを分析すること。
- 「学力の3要素」とは、1 知識・技能、2 思考力・判断力・表現力等の能力、3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度のことである。

関係法令（法）第57条、第118条（施）第165条の2
「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 ■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1)ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか（複数チェック■可） ■ 準学士課程全体として定めている □ 学科ごとに定めている □ その他	◇策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） <u>資料1-2-③-(1)-01「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）HP」</u>		

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

<p>(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー） <small>（教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ）</small> ■ 目的・方針等を踏まえて策定している</p>			
<p>(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■ 明示している</p>			
<p>(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む）」を明示しているか ■ 明示している</p>			
<p>(5) 受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか ■ 含まれている</p>	<p>求める学生像の1がこれに当たる。 ◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>		

（専攻科課程）
観点1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】
 ○ 観点1-2-①の留意点に準ずるものとする。

関係法令（法）第119条第2項（施）第165条の2（設）第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条
「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 ■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（複数チェック■可） ■ 専攻科課程全体として定めている <input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇策定した修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）がわかる資料 <u>資料1-2-①-(1)-01「卒業・修了認定の方針（ディプロマ・ポリシー）HP」</u></p>		再掲
<p>(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）と整合性を有しているか。</p>			

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

<ul style="list-style-type: none"> ■ 整合性を有している 			
(3) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示して <ul style="list-style-type: none"> ■ 示している 	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		

観点1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

○ 観点1-2-②の留意点に準ずるものとする。

関係法令（施）第165条の2（設）第15条、第16条、第17条第7項、第17条の2
「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか（複数チェック■可） <ul style="list-style-type: none"> ■ 専攻科課程全体として定めている <input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他 	<策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）がわかる資料 資料1-2-②-(1)-01「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）HP」		再掲
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 整合性を有している 	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		
(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（複数チェック■可） <ul style="list-style-type: none"> ■ どのような教育課程を編成するかを示している ■ どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■ 学習成果をどのように評価するかを示している <input type="checkbox"/> その他 	◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を添付する		

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

観点1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

- 観点1-2-③の留意点に準ずるものとする。

関係法令（法）第119条第2項（施）第165条の2、第177条

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか（複数チェック■可） <ul style="list-style-type: none"> ■ 専攻科課程全体として定めている <input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他 	◇策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） <u>資料1-2-③-(1)-01「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）HP」</u>		再掲
(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 目的・方針等を踏まえて策定している 			
(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 明示している 			
(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む）」を明示しているか <ul style="list-style-type: none"> ■ 明示している 			
(5) 受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 含まれている 	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。	「知識・技能」については、求める学生像1、「思考力・判断力・表現力」については求める学生像2、「主体性・多様性・協調性」については求める学生像1、3および4に含まれている。	

1-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

特になし			

評価の視点
1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。

観点1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。

【留意点】
 (2)の点検の実施については、改組転換といった教育組織の見直しや教育課程の充実（外国語科目の充実や、実務教育科目の充実等。）により、三つの方針の全体若しくはいずれかの見直しを行っていることについて、分析すること。

関係法令 (法)第109条 (施)第166条 (設)第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する 体制と合っているか <input type="checkbox"/> なっている	◇点検を行う体制がわかる資料（関連規程等、三つの方針の内容を点検し、必要に応じて見直すことについて定めているもの。） <u>資料1-3-①-(1)-01「教学の内部質保証について」</u>	体制については、資料1-1-①-(1)-02のP.6を参照	再掲
(2) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検している <input type="checkbox"/> 点検した上で、改定を要しないと判断している	◇点検の実情に関する資料（実績）	現在のところ改変が必要であるとの意見は出ていない。	

1-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

特になし			

基準1

優れた点

--

観点0：基本方針（ディプロマ・ポリシーに基づく活動）

サレジオ工業高等専門学校

改善を要する点			
3つのポリシーについては、学内関係者だけではなくステークホルダーからの意見も聴取してその妥当性を検証する必要がある。			

観点1：FDの方針に基づく活動について

機関別認証基準2 教育組織及び教員・教育支援者等

評価の視点

2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

観点2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。

【留意点】

- 準学士課程の目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての学科に関係する記述が明確になっていることを分析すること。
- 学科ごとの目的が、高等専門学校設置基準の規定に適合しているかどうかとともに、本評価書Ⅱに記載した学校の目的に適合しているかについて分析すること。

関係法令（法）第116条（設）第4条、第4条の2、第5条、第27条の3

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学科の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。	◆学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した学科の構成となっていることについて、資料を基に記述する。		
■ 整合性がとれている	資料2-1-①-(1)-01「本校の目的（学則抜粋）」	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakusoku-20210401.pdf	
	資料2-1-①-(1)-02「準学士課程卒業の認定に関する方針（HP）」	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/diploma_policy.html	
	資料2-1-①-(1)-03「デザイン学科規程」		
	資料2-1-①-(1)-04「電気工学科規程」		
	資料2-1-①-(1)-05「機械電子工学科規程」		
	資料2-1-①-(1)-06「情報工学科規程」		
	資料2-1-①-(1)-07「学科の改編がわかる資料（HP 沿革）」	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/history-20200527.pdf	
	本校は学則第1条に示された目的に基づいて準学士課程の卒業の認定に関する方針を定めている。また、「社会の有為な形成者」に関して、その時代の要請に応じて学科を改編しており、現在のデザイン学科・電気工学科・機械電子工学科・情報工学科の学科構成は、学校の目的および卒業の認定に関する方針と整合性がとれた構成となっている。		

観点2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。

【留意点】

- 専攻科課程の目的と修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての専攻に関係する記述が明確になっていることを分析すること。
- 専攻ごとの目的が、学校教育法の規定に適合しているかどうかについて分析すること。

関係法令（法）第119条第2項

観点1：FDの方針に基づく活動について

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）			
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。			
■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 専攻の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか ■ 整合性がとれている	◇本評価書Ⅱに記載したもの以外に専攻科規程等があれば、それがわかる資料		
	資料2-1-②-(1)-01「専攻科目的（学則抜粋）」	http://www.salesio- sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_aakusoku-	
	資料2-1-②-(1)-02「専攻科の認定に関する方針（HP）」	http://www.salesio- sp.ac.jp/main/education/diploma_policy.html	
	◆学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した専攻の構成となっていることについて、資料を基に記述する。		
	本校の専攻科は、準学士課程の3学科（電気工学科・機械電子工学科・情報工学科）を統合した生産システム工学専攻の1専攻で構成されている。準学士課程で学修した工学分野に加え、他の工学分野を学修できるようになっており、専攻科の目的および修了の認定に関する方針と整合性がとれた構成となっている。		

観点2 - 1 - ③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）			
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。			
■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇教育活動を有効に展開するため必要と考えられる教務・学生支援・入試等の委員会の組織体制がわかる資料（当該事項を審議するための組織の構成図、運営規程等）		
	資料2-1-③-(1)-01「運営組織図（HP抜粋）」	http://www.salesio- sp.ac.jp/main/pdf/about_us/organization chart-	
	資料2-1-③-(1)-02「学校運営会議規程（AMC）」		
	資料2-1-③-(1)-03「教育運営会議規程（EMC）」		
	資料2-1-③-(1)-04「教務部会会議規程」		
	資料2-1-③-(1)-05「学生部会会議規程」		
	資料2-1-③-(1)-06「募集委員会規程」		
(2) (1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■ 行っている	◇活動が行われている実績がわかる資料（当該事項の審議内容を記した会議の議事要旨等）		
	資料2-1-③-(1)-07「学校運営会議議題（AMC）」		
	資料2-1-③-(1)-08「教育運営会議議事録（EMC）」		
	資料2-1-③-(1)-09「教務部会議事録」		

観点1：FDの方針に基づく活動について

資料2-1-③-(1)-10「学生部会議事録」		
資料2-1-③-(1)-11「募集委員会議事録」		

2-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

該当なし

--	--	--

評価の視点
2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。

観点2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

【留意点】

- 本評価書Ⅱに記載した学校の目的に沿って編成された教育課程を展開するために、必要な教員が配置されていることを分析すること。
 (例1) 目的に「国際的コミュニケーション能力を育成する」を掲げている場合、英語担当教員の配置の充実や、ネイティブスピーカーの配置の充実等。
 (例2) 目的に「実践的技術者を育成する」を掲げている場合、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。
- (1)(2)に関し、専任教員数には助教の数も含めることができる(助手は除く)。
- (4)(5)については、非常勤講師についても分析すること。

関係法令 (法)第120条 (設)第6条、第7条、第8条、第9条

観点の自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■ 確保している	◇【様式2-1】高等専門学校現況表 資料2-2-①-(1)-01「高等専門学校現況表」		
(2) 専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■ 確保している			
(3) 専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保している ■ 確保している			
(4) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■ 担当が適切である	◇【様式2-3】担当教員一覧表等 資料2-2-①-(1)-02「担当教員一覧表」		

観点1：FDの方針に基づく活動について

(5) 適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。(複数チェック■可) <input type="checkbox"/> 博士の学位 <input type="checkbox"/> ネイティブスピーカー（担当する言語を母国語とする） <input type="checkbox"/> 技術資格 <input type="checkbox"/> 実務経験（教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等） <input type="checkbox"/> 海外経験 <input type="checkbox"/> その他	◆配慮事項として掲げる博士の学位、ネイティブスピーカー、技術資格、実務経験、海外経験、その他の具体的な内容について、資料を基に記述する。		
	学科の目的を達成するために、電気工学科・機械電子工学科・情報工学科では半数以上の博士の学士取得者を配置している。デザイン学科では学科の目的に照らして、実務経験者を多く配置している。また、ネイティブスピーカーや実務経験者および技術資格を有する教員も適切に配置している。 ◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な配慮事項を記述する。		

観点2 - 2 - ② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。

【留意点】

- 本評価書Ⅱに記載した目的や修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて編成された教育課程を展開するために必要な教員が配置されていることを分析すること。
 （例）目的に「応用開発型技術者を育成する」を掲げている場合、博士取得者、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。
- 本評価書Ⅰ(1)4.において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

関係法令（法）第119条第2項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

（根拠理由欄）

満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科の認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。

なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。 <input type="checkbox"/> 適切に確保している	◇【様式2-3】担当教員一覧表等 資料2-2-①-(1)-02「担当教員一覧表」		
(2) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 <input type="checkbox"/> 担当が適切である	◆左記について、資料を基に記述する		

観点1：FDの方針に基づく活動について

	専攻科の授業担当教員26名のうち21名が博士の学位を有しており、実務経験者や技術士の資格を有する教員も授業を担当しており、専門性の高い授業を実施している。また、本校専攻科は大学評価・学位授与機構の審査を5年ごとに受けており、審査に合格した教員のみが授業を担当することから適切な専門分野の教員が授業を担当している。		
(3) 適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。 ■ 担当が適切である	資料2-2-①-(3)-01「専攻科研究指導教員一覧」		

観点2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。

【留意点】なし。

関係法令（設）第6条第6項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。 ■ 配慮している	◇教員の年齢構成がわかる資料（観点4-3-①の、教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する根拠資料を流用してもよい。） 資料2-2-③-01 サレジオ高専HP 情報公開 資料2-2-③-02 サレジオ高専HP 公式研究ポータルサイト ◆配慮の取組について、資料を基に記述する。 新規採用の際には学科の年齢構成に偏りが生じないように、公募する職位（助教・講師・準教授・教授）を決めるなど配慮している。		
(2) (1)以外に配慮している措置等はあるか。（複数チェック■可） ■ 教育経歴 ■ 実務経験 □ 男女比 □ その他	◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料 新規採用の際には、教育・実務経験に係る具体的な記載した業績書の提出を義務付けている。 資料2-2-③-(2)-01「機械電子工学科教員公募要項」 ◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。		
(3) 在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置等はあるか（複数チェック■可） ■ 学位取得に関する支援	◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料 資料2-2-③-(3)-01「サレジオ高専教職員大学院修学貸付取扱		

観点1：FDの方針に基づく活動について

<input type="checkbox"/> 任期制の導入 <input checked="" type="checkbox"/> 公募制の導入 <input checked="" type="checkbox"/> 教員表彰制度の導入 <input type="checkbox"/> 企業研修への参加支援 <input checked="" type="checkbox"/> 校長裁量経費等の予算配分 <input checked="" type="checkbox"/> ゆとりの時間確保策の導入 <input type="checkbox"/> サバティカル制度の導入 <input type="checkbox"/> 他の教育機関との人事交流 <input type="checkbox"/> その他			
	資料2-2-③-(3)-02「教員任用規程」		
	資料2-2-③-(3)-03「サレジオ工業高等専門学校教職員表彰規程」		
	資料2-2-③-(3)-04「サレジオ工業高等専門学校課題研究費規程」		
	資料2-2-③-(3)-05「サレジオ工業高等専門学校就業規則運用内規（抜粋）」		
	▼その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、そのほかにかかる資料を添付する		

2-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

特になし			
------	--	--	--

評価の視点
2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。

観点2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。
【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 全教員（非常勤教員を除く。）に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している	◇教員評価に係る規程等がわかる資料 資料2-3-①-(1)-01「評価実施試行内規（抜粋）」		

観点1：FDの方針に基づく活動について

	◇給与や研究費配分に活用することとしているか、教員組織の見直し等に活用することとしているかがわかる資料 <u>資料2-3-①-(1)-02「評価実施試行内規（抜粋）」</u>			○
(2) (1)の体制の下、教員評価を実施しているか。 ■ 実施している				
(3) 把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。（複数チェック■可） ■ 給与における措置 ■ 研究費配分における措置 □ 教員組織の見直し □ 表彰 □ その他	<u>資料2-3-①-(3)-01「評価実施試行内規（抜粋）」</u> <u>資料2-3-①-(3)-02「サレジオ工業高等専門学校課題研究費規</u>			○ ○
	◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。			
	◆評価結果を具体的にどのように活用しているのか、資料を基に記述する。			
	3評価のうち「目標管理」は翌年度の賞与に反映され、「業績評価」および「人物評価」は翌年度の基本給に反映されている。また、課題研究費は外部資金の獲得に積極的な教員に対して支給されている。	ページ		
(4) 非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。 ■ 実施している	◇教員評価に係る規程等を定めた資料 非常勤講師に対しては授業アンケートを実施している。 <u>資料2-3-①-(4)-01「授業アンケート実施依頼文書」</u> ◇実施していることがわかる資料 <u>資料2-3-①-(4)-02「授業アンケートサンプル」</u>			

観点2－3－② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。

【留意点】

○ (3)の◆の自己評価において、採用や昇格等に関する規程が高等専門学校設置基準に適合することについて、採用や昇格に関して教育上の能力を考慮していることについても言及すること。

関係法令（設）第11～14条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
--------------------------	-------------------	----	----

観点1：FDの方針に基づく活動について

<p>(1) 教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	<p>◇定めている規程がわかる資料（採用・昇格に関する体制、方法、教員の資格、能力や業績に関する基準等が明記されているもの。）</p> <p><u>資料2-2-③-(3)-02「教員任用規程」</u></p>	
<p>(2) (1)で定められている基準等では、教育上の能力等を確認する仕組みとなっているか（複数チェック可）</p> <p>■ 模擬授業の実施</p> <p>■ 教育歴の確認</p> <p>■ 実務経験の確認</p> <p><input type="checkbox"/> 海外経験の確認</p> <p><input type="checkbox"/> 国際的な活動実績の確認</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇実施・確認していることがわかる資料</p> <p><u>資料2-3-②-(2)-01「採用面接報告」</u></p> <p><u>資料2-3-②-(2)-02「デザイン学科教員公募要項」</u></p> <p><u>資料2-3-②-(2)-03「公募書類フォーム(教育歴・実務歴を問う部)</u></p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>	
<p>(3) (1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っているか。</p> <p>■ 行っている</p>	<p>◆左記について、採用・昇格の実績を踏まえ、資料を基に記述する。</p> <p>教員の採用については、資料2-3-②-(2)-01～03に示す通り、模擬授業、教育歴、実務経験なども含めて総合的に評価し、採用を決定している。また、教員の昇格については資料2-2-③-(3)-02に基づき、業績評価および人物評価を数値化して行われている。</p>	
<p>(4) 非常勤教員の採用基準等を定めているか。</p> <p>■ 定めていない</p>	<p>◇非常勤教員の採用基準等の規程がわかる資料</p>	

2-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

特になし

評価の視点
2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

観点1：FDの方針に基づく活動について

観点2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。

【留意点】なし。

関係法令（設）第17条の4

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という）を実施する体制を整備しているか ■ 整備している	◇関係する委員会等の組織関係図、役割と責任が把握できる資料、関連規程 資料2-4-①-(1)-01「SDの実施について」 ◇実施体制・実施方針・内容・方法がわかる資料 資料2-4-①-(1)-02「2020年度 教員研修会（FD）」		
(2) 定期的にFDを実施しているか。 ■ 実施している	◇実施状況（参加状況等。）がわかる資料 資料2-4-①-(1)-02「2020年度 教員研修会（FD）」 ◇FDに関する報告書等の該当箇所等		
(3) (2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■ 結びついていない	◆FDの結果、改善に結びついた事例で組織として把握している取組について、資料を基に記述する。		

観点2-4-② 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

【留意点】

○ 助手を配置している場合には、組織、人数、支援内容等の配置状況がわかる資料を提示すること。

関係法令（法）第37条第14項、第60条第6項、第120条第1項第1号、2号、7号（設）第7条、第10条、第25条第2項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。 ■ 配置している	◇【様式2-1】高等専門学校現況表、教育支援者に関する事務組織図、役割分担がわかる資料 資料2-4-②-(1)-01「高等専門学校現況表」		

観点1：FDの方針に基づく活動について

	資料2-4-②-(1)-02「運営組織図（HP抜粋）」		
(2) 図書館に司書等の専門的職員を法令に従い適切に配置しているか。 ■ 配置している			

観点2-4-③ 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【留意点】
 ○ スタッフ・ディベロップメント（管理運営等の研修）への取組は観点4-2-⑤で分析するため、ここでは、FDに関連した教育の質の向上や授業の改善に関する教育支援者に対する取組を分析すること。
 FDへの取組の中で教員と教育支援者双方を対象とするものも想定される。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、 研修等 その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか ■ 行っている	◇研修等の実施状況（参加状況等。）の取組がわかる資料 資料2-4-③-(1)-01「研修参加一覧」		

2-4 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

特になし

基準2

優れた点

改善を要する点

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

機関別認証基準3 学習環境及び学生支援等

評価の視点

3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。
また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。

観点3-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。

【留意点】

○ (4)の専用の施設とは、高等専門学校設置基準第23条に規定されている施設のことである。

関係法令 (設)第22条、第23条、第24条、第26条、第27条、第27条の2、(施)第172条の2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 校地面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■ 確保している	◇【様式2-1】高等専門学校現況表 別紙の通り確保している。 資料3-1-1-(1)-01 施設面積.pdf		
(2) 校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■ 確保している	◇【様式2-1】高等専門学校現況表 別紙の通り確保している。 資料3-1-1-(2)-01 施設面積.pdf		○ ○
(3) 運動場を設けているか。 ■ 校舎と同一の敷地内又はその隣接地に設けている	◇設置状況がわかる資料 別紙の通り設置している。 資料3-1-1-(3)-01 施設配置状況.pdf ◆その他の適当な位置に設けているをチェックした場合は、その設置場所を具体的に記述する。		
(4) 高等専門学校の校舎に専用の施設を法令に従い適切に備えているか。 ■ 備えている	◇設置状況がわかる資料 高等専門学校設置基準(以下同基準)第23条1項一号 校長室、教員室、会議室、事務室 同基準 第23条1項二号 教室（講義室、演習室、実験・実習室等とする。）、研究室		

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

	同基準 第23条1項三号 図書館、保健室、学生控室		
	同基準 第23条2項 情報処理及び語学の学習のための施設		
	同基準 第23条3項 体育館及び講堂並びに寄宿舎、課外活動施設		
	以上について備えている。		
	資料3-1-1-(4)-01 校舎各階平面図.pdf		
(5) 学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。(複数チェック可)	◇設置状況がわかる資料		
■ 実験・実習工場	実習工場を備えている。		
□ 練習船	資料3-1-1-(5)-01 夢工房.pdf		
□ その他	配置は資料3-1-1-(3)-01 施設配置置状況.pdfを参照。		
	◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体的に記述する。		
(6) 自主的学習スペースを設けているか。	◇設置状況がわかる資料		
■ 設けている	校舎2階教室前に学生ラウンジスペースと図書館閲覧スペースを自主的学習スペースとして設置している。		
	資料3-1-1-(6)-01 学生ラウンジ.pdf		
(7) 教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。(複数チェック可)	◇設置状況がわかる資料		
□ 厚生施設	電波暗室・無響音室を設置している。		
□ コミュニケーションスペース	資料3-1-1-(7)-01 電波暗室・無響音室.pdf		
■ その他	◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体的に記述する。		
(8) 施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。	◇安全衛生管理体制がわかる資料		
■ 整備している	資料3-1-1-(8)-01 安全衛生管理規程.pdf		
	◇設備使用に関する規程、設備利用の手引き等		
	資料3-1-1-(8)-02 夢工房利用安全講習会規定.pdf		
(9) (8)の体制が有効に機能しているか。	◆安全(指導)管理に係る講習会等が行われている実例に関する資料を基に記述する。		
■ 機能していない	資料3-1-1-(9)-01 モデル工房心得.pdf		
	資料3-1-1-(9)-02 利用者の安全マニュアル.pdf		
	資料3-1-1-(9)-03 2021AD始業式 学生告知 0405.pdf		
	資料3-1-1-(9)-04 デザイン実習 I 8.pdf		
	資料3-1-1-(9)-05 工房作業 遵守項目.pdf		

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

	資料3-1-1-(9)-06 実験心得3EE電気工学実験.pdf		
	資料3-1-1-(9)-07 実験心得4EE電気工学実験.pdf		
	資料3-1-1-(9)-08 実習時等での安全講習実施の有無について (EE).pdf		
	資料3-1-1-(9)-09 労働安全衛生法に基づく資格講習.pdf		
	資料3-1-1-(9)-10 機械電子工学科「安全の手引き」.pdf		
(10) 施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。 ■ 行っている	◇施設・設備の整備状況・整備計画等のバリアフリー化への取組を示す資料 スロープ、点字ルート、多機能トイレを準備している。 資料3-1-1-(10)-01 車いす用 テーブルカタログ.pdf 資料3-1-1-(10)-02 車いす用 テーブル参考資料.pdf 資料3-1-1-(10)-03 車いす用テーブル 注文書.pdf 資料3-1-1-(10)-04 バリアフリー扉姿図.pdf 資料3-1-1-(10)-05 バリアフリー扉 注文書.pdf		
(11) 整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■ 整備していない	◇体制に関する規程等の資料		
(12) (11)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。 ■ 行っていない	◇教育・生活環境の利用状況や満足度等が把握できる資料 ◆左記について、改善を行った事例があれば、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。		

観点3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

- 【留意点】
- この観点のICT環境とは、無線・有線LANやパソコン等の活用環境等のネットワークシステムの整備状況（利用可能なエリアの状況も含む。）の概要を想定しており、ネットワークシステムの具体的な方式等については資料として求めている。
 - この観点では、ハードウェアの側面から捉えたICT環境について分析するものとし、ソフトウェアの側面から構築された成績確認や学習相談等に関するシステムの整備については、観点3-2-②で分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

■ 満たしていると判断する					
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲		
(1) 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境を適切に整備しているか。 ■ 整備している	◇ ICT環境の整備状況がわかる資料（学校内ネットワーク環境の整備状況、授業内外で学生が利用可能なパソコンの台数、情報処理センターの組織規程等。）				
	別紙、WEBの通り整備している。				
	資料3-1-2-(1)-01 規程第073号 総合メディアセンター規程.pdf				
	資料3-1-2-(1)-02 2020学校要覧 メディアセンター20200930.pdf				
	資料3-1-2-(1)-03 サレジオ工業高等専門学校事務分掌規定（事務組織）.pdf				
	資料3-1-2-(1)-04 次年度に向けた教育研究環境整備のお願い.pdf				
(2) ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。 ■ 整備している	◇ セキュリティ管理に関する規程等、セキュリティポリシー、セキュリティシステムの概要、ICT環境の管理体制及び業務内容、講習会等がわかる資料				
	資料3-1-2-(2)-01 20130401情報セキュリティポリシー.pdf				
	資料3-1-2-(2)-02 規程第066号 サレジオ工業高等専門学校総合メディアセンター情報館利用規程.pdf				
(3) ICT環境は有効に活用されているか。 ■ 活用されている	◇ ICT環境の利用状況がわかる資料				
	資料3-1-2-(3)-01 学校要覧2021用PC室授業利用状況.pdf				
	資料3-1-2-(3)-02 学校要覧2021用PC室時間割.pdf				
(4) (3)について学生や教職員のICT環境の利用状況や満足度等を学校として把握し、改善等を行う体制を整備しているか。 ■ 整備していない	◇ 体制に関する規程等の資料				
			体制としては整っていないが、遠隔授業に向けて学生や教職員に対してネット環境の調査をおこなった。ネット環境のない学生に対しては、学校のPC室を開放するなど緊急的な対策を実施した。		
(5) (4)の体制が機能しているか。 ■ 機能していない	◆ 左記について、改善を行った事例がある場合は、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。				

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

--	--	--	--

観点3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

- 【留意点】
- 教育課程、学科の種類、学年区分に応じて、教育研究上必要となる図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の資料が系統的（学科構成に対応した系統性、学習内容に対応した分野やレベル等の系統性。）に収集、整理されているかについて分析すること。また、活用面について、これらの資料の教職員や学生による利用状況等について分析すること。
 - 図書等の整備方針、整備状況及び図書館等の開館時間がわかる資料を提示すること。

関係法令（設）第25条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 ■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 図書館の設備を法令に従い備えているか。 ■ 備えている	◇整備状況がわかる資料 資料3-1-3-(1)-01 建物面積及び図書館.pdf 資料3-1-3-(1)-02 2020学校要覧 メディアセンター20200930.pdf 資料3-1-3-(1)-03 規程第022号 図書館利用規程.pdf サレジオ高専図書館 https://opac.salesio-sp.ac.jp/		○
(2) 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。 ■ 系統的に収集、整理している	◇整備方針、整備状況（内訳、冊子等のデータ）がわかる資料 資料3-1-3-(2)-01 蔵書数・内訳.pdf 資料3-1-3-(2)-02 図書館利用のしおり.pdf		
(3) (2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 ■ 活用されている	◇図書館等の教職員や学生による利用状況（図書等貸出数、図書館入館者数）がわかる資料 資料3-1-3-(3)-01 利用実績.pdf 資料3-1-3-(3)-02 学校要覧2021用図書館統計.pdf		
(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。 ■ 行っている	◇図書館等の利用サービスに係る取組（開館時間への配慮、職員等によるガイダンス等）がわかる資料 資料3-1-3-(4)-01 図書館利用のしおり.pdf 資料3-1-3-(4)-02 開館時間.pdf 資料3-1-3-(4)-03 文献検索OT実施スケジュール.pdf 資料3-1-3-(4)-04 文献検索資料.pdf		○

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

3-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。		

評価の視点

3-2 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。
また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。

観点3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。

- 【留意点】
- 入学時や授業登録時等において実施しているガイダンスについて、学校全体に対するものか、学年全体に対するものか、学科・専攻ごとに実施するものか、それぞれの内容が適切なものかについて分析すること。
 - 図書館、実験・実習工場等の利用に関するガイダンスの実施について分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。（複数チェック可） <input checked="" type="checkbox"/> 学科生 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻科生 <input type="checkbox"/> 編入学生 <input type="checkbox"/> 留学生 <input type="checkbox"/> 障害のある学生 <input type="checkbox"/> 社会人学生 <input type="checkbox"/> その他	◇実施状況がわかる資料		
	【学科生用】		
	資料3-2-1-(1)-01 2022年度選択科目履修ガイダンス資料.pdf		
	資料3-2-1-(1)-02 「生産システム工学」教育プログラム 履修の手引(2021年度版 本科4年説明版).pdf		
	資料3-2-1-(1)-03 図書館利用のしおり.pdf		○
	資料3-2-1-(1)-04 文献検索OT実施スケジュール.pdf		○
	資料3-2-1-(1)-05 文献検索資料.pdf		○
	【専攻科生用】		
	資料3-2-1-(1)-07 覚書.pdf		
	資料3-2-1-(1)-08 サレジオ工業高等専門学校メール-特例認定専攻科電子申請に係る今後のスケジュールについて.pdf		
資料3-2-1-(1)-09 特例案内 R2.pdf	5-60まで冊子にして配布		
資料3-2-1-(1)-10 2020学位授与10月期電子申請に係る注意事項.pdf			

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

資料3-2-1-(1)-11 学位申請用証明書申請用紙.pdf 資料3-2-1-(1)-12 専攻科(及兼攻科)単位修得時刻確認書.pdf		
資料3-2-1-(1)-13 本科・専攻科適用年度別単位修得時期表.pdf		
◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。		

観点3-2-2 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

- (1)の相談・助言体制については、学生への周知状況（刊行物、プリント、ウェブサイト等の該当箇所。）についても分析すること。
- 相談・助言体制やニーズ把握の仕組みが機能しているかを確認するため、それぞれの体制の利用状況や、ニーズを把握するための仕組みについて分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。 (複数チェック可能) ■ 担任制・指導教員制の整備 ■ オフィスアワーの整備 □ 対面型の相談受付体制の整備 ■ 電子メールによる相談受付体制の整備 ■ ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■ 資格試験・検定試験等の支援体制の整備 □ 外国への留学に関する支援体制の整備 □ その他	◇チェックした選択肢に関する状況がわかる資料 【担任制】資料3-2-2-(1)-01 20210630 開業式配布資料.pdf 【指導教員】資料3-2-2-(1)-02 2021年度卒業研究室配属先（掲示）.pdf 資料3-2-2-(1)-03 (シラバス用)2021教員データ（専任一般）.pdf 資料3-2-2-(1)-04 (シラバス用)2021教員データ（専任専門）.pdf 資料3-2-2-(1)-05 (シラバス用)2021教員データ（非常勤）.pdf 資料3-2-2-(1)-06 20210222説明会用資料.pdf 資料3-2-2-(1)-07 WebClass利用マニュアル.pdf 資料3-2-2-(1)-08 サマースクリーニング申請内容一覧.pdf 資料3-2-2-(1)-09 カラーコーディネーター検定試験公式サイト.pdf 資料3-2-2-(1)-10 20190920 第47回CCOOfinal01検定案内.pdf ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。	Gsuiteアカウントを保護者にも配布 WebClassを通して学習相談も可	

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

<p>(2) (1)は、学生に利用されているか。</p> <p>■ 利用されている</p>	<p>◇各種相談助言体制の利用状況（実績・相談対応例等）がわかる資料 資料3-2-2-(2)-02 Webclass利用状況20210826.pdf</p>		
<p>(3) 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（複数チェック）</p> <p><input type="checkbox"/> 担任制・指導教員制の導入 <input type="checkbox"/> 学生との懇談会 <input type="checkbox"/> 意見投書箱 ■ その他</p>	<p>◇制度がわかる資料</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p> <p>資料3-2-2-(3)-01 20200401修学支援相談リーフレット.pdf</p>		
<p>(4) (3)は、有効に機能しているか。</p> <p>■ 機能している</p>	<p>◇制度の機能状況がわかる資料</p> <p>資料3-2-2-(4)-01 前期末 試験のながれ.pdf</p>	<p>試験問題の拡大などの配慮が必要な学生の試験監督をされる先生には、教務担当または教務事務より個別にてご連絡をさせていただきます。必要があれば個人の例もご用意できます</p>	

観点3-2-③ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。

【留意点】

- 障害者差別解消法への対応については、学校独自の取組のほか、設置法人が当該学校を対象として対応しているものについても、資料として提示すること。
- (10)については、必須入力欄ではないことに留意し、該当する取組が行われている場合のみ、「行っている」にチェックし、右欄にそれに関して記述すること。

関係法令 教育基本法第4条第2項、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律第5条、第7～11条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。</p> <p>■ 整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p>		
<p>(2) (1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。</p> <p>■ 行っていない</p>	<p>◇留学生を支援する取組（留学生指導教員の配置、留学生チューターの配置等）がわかる資料</p>		

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

	◇支援の実施状況がわかる資料		
(3) 編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■ 整備していない	◇整備状況がわかる資料		
(4) (3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■ 行っていない	◇編入学生を支援する取組がわかる資料 ◇入学前の指導を行っている場合には、指導スケジュール、指導内容等が記載された資料 ◇入学後に補習授業や学習相談等を行っている場合には、実施状況及びその内容（担当教員、実施科目、対象者別実施回数、使用教材等。） ◇支援の実施状況がわかる資料		
(5) 社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■ 整備していない	◇整備状況がわかる資料		
(6) (5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■ 行っていない	◇社会人学生を支援する取組（情報提供（電子メール、ウェブサイト等。））がわかる資料 ◇社会人学生に対する学習相談の制度が把握できる資料（オフィスアワー一覧表、配付プリントの該当箇所等。） ◇支援の実施状況がわかる資料		
(7) 障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇整備状況がわかる資料 資料3-2-3-(7)-01 20200401修学支援相談リーフレット.pdf 資料3-2-3-(7)-02 20190401修学支援のながれ.pdf		○

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

<p>(8) (7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。</p> <p>■ 行っている</p>	<p>▽障害のある学生を支援する取組（ノート・カー、キーボードの配置）がわかる資料 なし</p> <p>◇支援の実施状況がわかる資料 資料3-2-3-(8)-01 修学支援決定通知書・同意書2020.pdf</p>	
<p>(9) 障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係各項目を含む。）に対応しているか。</p> <p>■ 対応している</p>	<p>◇対応状況がわかる資料 資料3-2-3-(9)-01 20200401サレジオ工業高等専門学校障害学生支援規程.pdf</p>	
<p>(10) 上記以外の特別な支援を行っているか。</p> <p>■ 行っている</p>	<p>◆左記について、該当する取組があれば、資料を基に記述する。</p> <p>資料3-2-3-(10)-02 緊急対応申し合わせ同意書.pdf</p>	<p>てんかん・アナフィラキシーショック等緊急対応が必要となる可能性がある学生に対し、保護者と緊急対応に関する申し合わせ同意書を取り交わし対応（支援）の準備をしている。</p>

観点3-2-④ 学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

【留意点】なし。

関係法令（法）第12条 学校保健安全法第8条、第13条 いじめ防止対策推進法第35条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備しているか。（複数をチェック■可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学生相談室 ■ 保健センター ■ 相談員やカウンセラーの配置 ■ ハラスメント等の相談体制 ■ 学生に対する相談の案内等 ■ 奨学金 ■ 授業料減免 ■ 特待生 ■ 緊急時の貸与等の制度 ■ いじめの防止・早期発見・対処等の体制 □ その他 	<p>◇それぞれの体制の整備状況がわかる資料（生活指導の体制、指導内容、組織図、関連規程、委員会等。）</p> <p>資料3-2-4-(1)-01 学校HP学生支援センター紹介2020.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-02 教育改善のための意見箱設置について.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-03 サレジオ工業高等専門学校奨学金規程.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-04 学生便覧info2021(保護者用)p.10.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-05 特待生細則.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-06 学納金徴収に関する規程.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-07_【公開不可】プレテック学生面談資料.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-08_【公開不可】プレテック学生調査資料1.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-09_【公開不可】プレテック学生調査資料2.pdf</p> <p>資料3-2-4-(1)-10 教務044 保護者懇談会（後期）について（通知）.pdf</p>		

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

	◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。		
(2) 健康診断及び健康相談・保健指導を定期的実施しているか。 ■ 実施している	◇各取組の実施状況がわかる資料 資料3-2-4-(2)-01 2021年度健康診断案内.pdf 資料3-2-4-(2)-02 2019-2020保健室の対応件数.pdf 資料3-2-4-(2)-03 2019-2020保健室の健康相談活動.pdf 資料3-2-4-(2)-04 全クラス教室掲示：手洗い・学習スタイルについて（学生部と協働）.pdf 資料3-2-4-(2)-05 学生向け安全講習会（応用技術センター依頼に対応）.pdf 資料3-2-4-(2)-06 アチアキシー・癲癇等の疾病を持つ学生との定期的な面談.pdf 資料3-2-4-(2)-07 個別の保健指導：PMS症状のある学生へ.pdf		
(3) (2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の活動が実際に学生に利用されているか。 ■ 利用されている	◇相談実績（相談・対応例）、各体制に係る委員会等の実施状況がわかる資料 資料3-2-4-(3)-01 SHS20201102.pdf 資料3-2-4-(3)-02 相談室来室ケース2020.pdf ◇奨学金等の利用状況がわかる資料	学生支援支援センター会議（通称「SHS」議事録例） 相談室対応記録	

観点3 - 2 - ⑤ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。

- 【留意点】**
- 資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談を行っている場合には、担当教員、受講者数、実施科目、対象者別実施回数、使用教材、配布プリント等、概要がわかる資料を根拠資料として提示すること。
また、資格試験・検定試験の受験者数、合格者数等の実績から機能しているかを分析すること。
 - 資格取得による単位修得の認定を行っている場合には、関連規程、単位認定実績等を根拠資料として提示すること。
 - 外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等を行っている場合には、内容が把握できる資料や関連規程、留学実績等を根拠資料として提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇体制の整備状況がわかる資料 資料3-2-5-(1)-01 キャリアセンター業務分担.pdf		

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

<p>(2) (1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校のアドのようか取組を行っているか。(複数チェック可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 <input type="checkbox"/> 進路指導用マニュアルの作成 ■ 進路指導ガイダンスの実施 <input type="checkbox"/> 進路指導室 <input type="checkbox"/> 進路先(企業)訪問 ■ 進学・就職に関する説明会 ■ 資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 <input type="checkbox"/> 資格取得による単位修得の認定 <input type="checkbox"/> 外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 <input type="checkbox"/> その他 	<p>◇左記でチェック■した取組状況がわかる資料</p> <p>資料3-2-5-(2)-01 キャリアデー 学生・保護者宛てお知らせ.pdf</p> <p>資料3-2-5-(2)-02 就活支援講座のお知らせ.pdf</p> <p>資料3-2-5-(2)-03 キャリアオリエンテーションのお知らせ.pdf</p> <p>資料3-2-5-(2)-04 サマースクール申請内容一覧.pdf</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>	
<p>(3) (2)の取組が機能しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 機能している 	<p>◇それぞれの取組の(活用)実態がわかる資料</p> <p>資料3-2-5-(3)-01 進路状況(2021.0525集計).pdf</p>	

観点3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 整備している 	<p>◇課外活動に関する規程、組織図、施設の整備状況がわかる資料</p> <p>資料3-2-6-(1)-01 2019顧問一覧.pdf</p> <p>資料3-2-6-(1)-02 応用技術センター規程.pdf</p> <p>資料3-2-6-(1)-03 応用技術センター説明会(2019-04-16) 1部参加者向け.pdf</p> <p>資料3-2-6-(1)-04 応用技術センター説明会(2019-04-16) 企画者向け.pdf</p> <p>資料3-2-6-(1)-05 学生規則 HP20190405.pdf</p> <p>資料3-2-6-(1)-06 クラブ設置規程 info2016.pdf</p> <p>資料3-2-6-(1)-07 学友会図 info2016.pdf</p>		

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

	資料3-2-6-(1)-08 施設利用規程 info2016.pdf		
(2) (1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 ■ なっている	◇(1)の体制において、責任の所在がわかる資料 資料3-2-6-(2)-01 20210630 開業式配布資料 抜粋.pdf		
(3) 学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。 ■ 機能している	◇課外活動に対する支援活動の内容がわかる資料 資料3-2-6-(3)-01 応用技術センター会計2019.pdf 資料3-2-6-(3)-02 応技プロジェクト名簿2019.pdf 資料3-2-6-(3)-03 2019 出張等一覧表(課外活動抽出版).pdf 資料3-2-6-(3)-04 学生部会議事録抜粋資料.pdf 資料3-2-6-(3)-05 2020学生の学外発表に関する調査.pdf		

観点3 - 2 - ⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生寮を整備しているか。 ■ 整備している	◇整備状況がわかる資料 資料3-2-7-(1)-01 学生寮.pdf 資料3-2-7-(1)-02 校舎全景.pdf 資料3-2-7-(1)-03 平面図（配置図）.pdf 資料3-2-7-(1)-04 平面図（一階平面図）.pdf 資料3-2-7-(1)-05 平面図（二階平面図）.pdf 資料3-2-7-(1)-06 平面図（三階平面図）.pdf		
(2) 生活の場として整備しているか。 ■ 整備している	◇生活支援の内容がわかる資料（談話室、補食室等の整備状況等。）.pdf 資料3-2-7-(2)-01 寮生の生活支援 寮紹介（談話室・補食室の利用）.pdf		
(3) 勉学の場として整備しているか。	◇学習支援の内容がわかる資料（自習室の整備状況、自習時間の設定状況等の整備面での工夫等。）		

観点2：学生支援の方針に基づく活動について

<ul style="list-style-type: none"> ■ 整備している 	<p>資料3-2-7-(3)-01 寮生の学習支援 寮紹介（自習室の整備・自習時間の設定）.pdf</p>	
<p>(4) (2)(3)について、有効に機能しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 機能している 	<p>◇入寮状況がわかる資料 資料3-2-7-(4)-01 寮生点呼票.pdf 資料3-2-7-(4)-02 寮生部屋割表（二階）.pdf 資料3-2-7-(4)-03 寮生部屋割表（三階）.pdf ◇勉学の間としての活用実績がわかる資料</p>	
<p>(5) 管理・運営体制を整備しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 整備している 	<p>◇学生寮の管理規程等の資料 資料3-2-7-(5)-01 宿直業務マニュアル.pdf 資料3-2-7-(5)-02 学生寮規定.pdf 資料3-2-7-(5)-03 寮生活マニュアル.pdf</p>	

3-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

--	--	--

基準3

優れた点		
改善を要する点		

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

基準5 準学士課程の教育課程・教育方法

評価の視点 5－1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。			
観点5－1－① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。			
【留意点】 ○ 観点1－2－②の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。			
関係法令（設）第15条、第16条、第17条、第17条の2			
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■ 配置している	◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料 資料5-1-1-(1)-01 教育課程表(2016年度入学・2020年度卒業)	カリキュラム・ポリシーにもとづき、低学年では専門教育の基礎となる数理系一般科目を多く配置し、進級するにしたがい専門科目の比率が高くなるように配置している（教育課程表下の履修単位表を参照）。さらに、学生の興味に応じた学修を担保するために高学年において選択科目を配置している。	
	資料5-1-1-(1)-02 シラバス(例示:卒業研究)	シラバス内に授業科目と学科の学習・教育到達目標との対応を掲載している。ただし、対応する学習・教育到達目標の項目を「記号」により示しているだけで、該当する項目を「どのレベルまで」カバーするか示されていない。2020年度入学以降の最新の教育課程においては、レベルについての議論と表記方法の検討が必要となる。	
(2) 一般教育の充実に配慮しているか。 ■ 配慮している	◇配慮していることがわかる資料 資料5-1-1-(2)-01 教育課程表(2016年度入学・2020年度卒業)	カリキュラム・ポリシーにもとづき、低学年では専門教育の基礎となる数理系一般科目を多く配置し、進級するにしたがい専門科目の比率が高くなるように配置している（教育課程表下の履修単位表を参照）。さらに、学生の興味に応じた学修を担保するために高学年において選択科目を配置している。	再掲
(3) 進級に関する規程を整備しているか。	◇進級に関する規程の整備状況がわかる資料		

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

<p>■ 整備している</p>	<p><u>資料5-1-1-(3)-01 教務規則()第16条</u></p>	<p>教務規則および教務諸規程にて「進級に関する規則等」を整備し、本校HPにて公開している。</p>	
	<p><u>資料5-1-1-(3)-02 教務諸規定()[3]進級に関する規程</u></p>		
<p>(4) 1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか</p>	<p>◇35週が確保されている状況が確認できる資料（学年暦等。）</p>		
<p>■ 確保している</p>	<p><u>資料5-1-1-(4)-01 学年暦2020(ダイジェスト版)</u></p>	<p>新型コロナウイルス感染症への対応のため変則的な学年暦となっている。オンデマンド形式の遠隔授業による自宅学習期間（遠隔授業期間）を含め35週を確保している。</p>	
	<p><u>資料5-1-1-(4)-02 学年暦2019(ダイジェスト版)</u></p>	<p>標準的な学年暦では授業を行う期間を35週確保している。</p>	
<p>(5) 特別活動を90単位時間以上実施しているか。</p>	<p>◇特別活動の実施状況がわかる資料（学年暦等。）</p>		
<p>■ 実施している</p>	<p><u>資料5-1-1-(5)-01 始業式実施要項2020(コロナ禍により中止)</u></p>	<p>学則第13条の6に定める特別活動は、主に始業式・終業式（2単位時間相当×3年）と学級活動LHR（1単位時間×28週×3年）で構成される。これらに加え、定期的に朝の学級活動HRで実施される教職員による講和（モーニングトーク）を実施している。ただし、特別活動の定義を教職員・学生へ周知することや第3学年修了判定時に学生の特別活動への取り組み状況を確認することについては今後の課題である。</p>	
	<p><u>資料5-1-1-(5)-02 終業式実施要項2020</u></p>		
	<p><u>資料5-1-1-(5)-03 学級活動LHRの実施計画</u></p>	<p>2016年度～2018年度（2020年度卒業生が1年～3年の時に該当）の計画を提示</p>	
	<p><u>資料5-1-1-(5)-04 モーニングトーク実施計画</u></p>	<p>2016年度～2020年度の計画を提示</p>	
<p>観点5－1－② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。</p>			
<p>【留意点】</p> <p>○ 例えば、国際的に活躍できる技術者の養成が目的に含まれる場合には、外国語の伝達と読解の基礎能力育成について分析するなど、目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして授業科目の内容の工夫を行っているか分析すること。</p> <p>○ この観点では教育課程の編成について分析するものであり、正規の教育課程とは別に実施しているもの（例えば、補習や補講等。）は、この観点の対象ではないことに留意すること。</p>			
<p>関係法令（設）第19条、第20条</p>			
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>	<p>備考</p>	<p>再掲</p>

<p>(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。(複数チェック■可)</p>	<p>◇チェックした配慮項目に関して、実施状況がわかる資料</p>	
<p><input type="checkbox"/> 他学科の授業科目の履修を認定</p>	<p><u>資料5-1-2-(1)-01 選択科目D群「インターンシップ」について(2019年度)</u></p>	<p>(インターンシップによる単位認定) 学生のニーズおよび社会からの要請にもとづき、本校では学年進行に応じた各種キャリア教育を実施している。本科目は、本校で開催されるキャリア教育プログラムに参加し進路について知見を広めるとともに、学外実習を通じ進路への関心と理解を深めることを目的としている。</p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> インターンシップによる単位認定</p>	<p><u>資料5-1-2-(1)-02 シラバス(インターンシップ)</u></p>	
<p><input type="checkbox"/> 専攻科課程教育との連携</p>	<p><u>資料5-1-2-(1)-03 インターンシップ単位認定の実績(2019年度)</u></p>	<p>2020年度卒業生においては、デザイン学科4名、電気工学科9名、機械電子工学科47名、情報工学科6名がインターンシップの単位を取得している。2019年度の実績データでは、学外実習(企業・大学等)への参加に対する各学科の指導方針の差が、各学科の単位取得者数の差異として現れている。</p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> 外国語の基礎能力(聞く、話す、読む、書く)の育成</p>	<p><u>資料5-1-2-(1)-04 学外実習先企業等からのフィードバック(2019年度)</u></p>	<p>学外実習先の企業・大学等からのフィードバックについてはキャリアセンターを中心に収集しているものの、これを社会からの要請の一つとして捉え教育課程の編成や授業科目の内容にフィードバックすることは今後の課題である。</p>
		<p>(印刷はサンプルのみ)</p>
<p><input type="checkbox"/> 資格取得に関する教育</p>	<p><u>資料5-1-2-(1)-05 英語における4技能育成(例示:CSシラバス)</u></p>	<p>(外国語の基礎能力の育成) 社会からの要請にもとづき、国際社会の中にあってお互いを理解し、自己を正しく表現できる力を身につけることを目的に、1年～3年に配当される「英語」において4技能の育成を意識した授業を計画・実施している。</p>
<p><input type="checkbox"/> 他の高等教育機関との単位互換制度</p>		
<p><input type="checkbox"/> 個別の授業科目内での工夫</p>		
<p><input type="checkbox"/> 最先端の技術に関する教育</p>		
<p><input checked="" type="checkbox"/> その他</p>		
	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>	
	<p><u>資料5-1-2-(1)-06 選択科目履修ガイダンス資料</u></p>	<p>学生のニーズの受け皿の一つとして、4・5年生を対象とした選択科目を開講している。選択科目の授業担当は一般教育科をはじめ全ての学科から選出されており、学生の所属学科以外の教員が担当する授業を履修できる。本校では、選択科目の開講において最小開講人数を設定しているため、全ての学生の履修希望に応えられていないことが懸案事項となっている。</p>

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

	資料5-1-2-(1)-07 選択科目履修実績(2019年度・2020年度)	選択科目への履修希望は、必修選択科目（C群）を除くと多い年度でも200名強（のべ人数）で、その大半は4年生となっている。2017年度以前の入学者の内、デザイン学科の学生は自由選択科目（D群）から2単位を取得することが卒業要件となっていたため2020年度までは一定数の履修者が存在していたが、2021年度以降については履修希望者の減少が見込まれる。		
(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。	◇単位互換制度の内容がわかる資料			
■ 単位互換制度を設けていないので、該当しない	資料5-1-2-(2)-01 学則()第13条の2および3	学則および教務規則に他の高等教育機関で取得した単位の取り扱いについて定めているが、実際には単位互換制度を設けていない。		
	資料5-1-2-(2)-02 教務規則()第5条～第10条			
<p>観点5－1－③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、PBL型の授業や創造型の演習等における具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。 ○ 創造力を育む教育方法の工夫については、学校としてどう捉え、どう展開しているかを踏まえて分析すること。 ○ 実践力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、インターンシップの活用等の具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。 <p>(注) PBLとは、プロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法のこと。Problem - based Learning 又は Project - based Learning の略。</p> <p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>				
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲	
(1) 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	◇創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（PBL型の授業や創造型の演習の実施等）			
	■ 行っている	資料5-1-3-(1)-01 創造力や実践力を育む教育方法の実践	（詳細は資料の「創造力の養成」（計画）に該当する部分を参照） （印刷はサンプルのみ）	
	◇実施状況がわかる資料			
		資料5-1-3-(1)-01 創造力や実践力を育む教育方法の実践	（詳細は資料の「創造力の養成」（実施）に該当する部分を参照）	再掲
	◆工夫を行った結果、学生が創造力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。			
	資料5-1-3-(1)-01 創造力や実践力を育む教育方法の実践	（詳細は資料の「創造力の養成」（評価）に該当する部分を参照）	再掲	

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

(2) 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■ 行っている	◇実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（インターンシップの中での具体的な工夫内容等。）		
	資料5-1-3-(1)-01 創造力や実践力を育む教育方法の実践	（詳細は資料の「実践力の養成」（計画）に該当する部分を参照）	再掲
	◇実施状況がわかる資料		
	資料5-1-3-(1)-01 創造力や実践力を育む教育方法の実践	（詳細は資料の「実践力の養成」（実施）に該当する部分を参照）	再掲
	◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。		
	資料5-1-3-(1)-01 創造力や実践力を育む教育方法の実践	（詳細は資料の「実践力の養成」（評価）に該当する部分を参照）	再掲

5-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

2016年度学生便覧に掲載された「本校と学科の学習・教育到達目標の対応」は、現在のディプロマポリシーより前に作成されたもので見直しが必要となっている。各学科から提出された「創造力・実践力を育む教育」に関する所見は、見直し前の「本校と学科の学習・教育到達目標の対応」（現在非公開）にもとづいており、「創造力・実践力を育む教育」に関する本校の方針を踏まえた分析が困難な状況にある。各学科においては、創造力・実践力を育む教育について継続して取り組んでいることが確認でき、デザイン学科の学生をはじめとした着実な成果が見られる。今後、各学科には本校の方針に沿った教育計画（P）となっているかを見直し、実施状況（D）の報告と教育効果（C）の検証を必要とする。

評価の視点

5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。

【留意点】

なし。

関係法令（設）第17条の2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
--------------------------	-------------------	----	----

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されている</p> <p>■ 採用されている</p>	<p>◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料</p>		
<p>(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（複数チェック■可）</p> <p>■ 教材の工夫</p> <p>■ 少人数教育</p> <p><input type="checkbox"/> 対話・討論型授業</p> <p><input type="checkbox"/> フィールド型授業</p> <p><input type="checkbox"/> 情報機器の活用</p> <p><input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮</p> <p><input type="checkbox"/> 一般科目と専門科目との連携</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇チェックした項目の実施状況がわかる資料</p>		
<p>観点5－2－② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。</p> <p>【留意点】 なし。</p> <p>関係法令（設）第17条、第17条の3</p>	<p>資料5-2-1-(1)-01 学科・学年毎の授業の開講状況(授業形態)</p> <p>◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。 シラバスでは、各授業科目がどのような授業形態で実施されるかを、授業形態毎の実時間として明示している。本資料では、2016年度入学生の教育課程における講義、演習、実験実習の3形態の授業時間（計画）を積算している。 各学科ともに、演習および実験実習の占める割合が50%前後となっており、講義で学んだ知識項目を定着させるために、学生が自ら手を動かして学修する機会が多くなるように教育課程を編制している。</p> <p>(演習、実験実習の占める割合) デザイン学科：57.3%，電気工学科：47.1%，機械電子工学科：48.3%，情報工学科：49.6%</p> <p>資料5-2-1-(2)-01 教育内容に応じた適切な学習指導</p> <p>(教材の工夫) 詳細は資料内の（教材の工夫）を参照 (少人数教育) 詳細は資料内の（少人数教育）を参照</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>		
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>	<p>備考</p>	<p>再掲</p>

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（複数チェック■可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 授業科目名 ■ 単位数 ■ 授業形態 ■ 対象学年 ■ 担当教員名 ■ 教育目標等との関係 ■ 達成目標 ■ 教育方法 ■ 教育内容（1授業時間ごとに記載） ■ 成績評価方法・基準 ■ 事前に行う準備学習 <input type="checkbox"/> 高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 ■ 教科書・参考文献 ■ その他 	<p>◇シラバスの作成要領や具体例等の左記内容がわかる資料</p>		
	<p><u>資料5-2-2-(1)-01 シラバス2020の作成について(依頼)</u></p>	<p>本校のシラバスは、ガイドラインにしたがい所定の様式を用いて作成される。2018年度以降のシラバスには担当教員名を記載していないが、別途担当教員一覧を用意している。</p>	
	<p><u>資料5-2-2-(1)-02 シラバス2020作成ガイドライン</u></p>	<p>教育内容（授業計画）については、必ずしも1授業時間（1回の授業）毎の内容となっていない。授業形態によっては、複数回の内容をまとめて記述する方が、授業計画を把握しやすい。 成績評価方法について、履修者に公開している試験成績等のデータに基づいて自らの評価を算出できるよう心がけているが、成績評価基準については明記されていないものが多く今後の課題となる。</p>	
	<p><u>資料5-2-2-(1)-03 シラバス2020サンプル</u></p>		
	<p><u>資料5-2-2-(1)-04 担当教員一覧(2018年度以降)</u></p>		
	<p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容（項目）を記述する。 2019年度より「高等教育の就学支援新制度」の対象機関に認定されている。そこで、実務経験を有する教員による授業について、実務経験をどのように授業に活かしているか具体的に記述している。</p>		
<p>(2) 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 改善を行っていない 	<p>◇活用状況がわかる資料</p>		
	<p><u>資料5-2-2-(2)-01 シラバス2020の作成について(依頼)</u></p>	<p>授業初回にてシラバスを配布し、シラバスの記載内容について解説するよう授業担当へ依頼している。</p>	再掲
	<p><u>資料5-2-2-(2)-02 学習指導期間の授業実施について</u></p>	<p>期末試験後の一週間を学習指導期間として運用し、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックや授業アンケート・達成度アンケートを実施している。その際、授業の到達目標や評価方法をシラバスを用いて確認し、課題に対するフィードバックや達成度アンケートの実施について透明性を担保するよう依頼している。</p>	

	◆改善を行った事例があれば、改善内容について、資料を基に記述する。		
		シラバスの活用については依頼しているものの、シラバスの活用状況については把握しておらず、授業担当および学生に対する調査については今後の課題である。	
(3) 設置基準第17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。	◇状況が確認できる資料（学年暦、時間割等。）		
■ 確保している	<u>資料5-2-2-(3)-01 学年歴2020(ダイジェスト版)</u>	本校では、定期試験を授業内演習として位置付け、各曜日ともに試験を含め半期あたり14週＋試験2週の計16週を確保している。例えば、試験週を1単位時間、他週を2単位時間で運用し半期1単位の授業を計画できる。なお、試験を実施しない実験・実習等の科目については、半期4回設定している補講日に授業を実施し不足時間を補っている。	再掲
	<u>資料5-2-2-(3)-02 時間割2020</u>		
(4) (3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。	◆1単位時間を50分以外で運用している場合は、標準50分に相当する教育内容を確保していることについて、学校の現状を踏まえ、資料を基に記述する。		
■ 1単位時間＝50分で規定、45分で運用	<u>資料5-2-2-(4)-01 時間割2020</u>	本校では、原則として90分単位（2コマ連続）の授業時間割を運用している。2コマ連続での授業運営は、出席確認や前回の振り返り・授業のまとめを90分の中で一回にまとめて実施できるため、50分1単位時間の授業を個別に2回実施するのと同等の教育を実施できるものと考えている。	再掲
(5) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。 (リストから選択してください)	◇シラバス集、履修要項等の明示状況がわかる資料		
	<u>該当しない</u>	2020年度卒業・2016年度入学の教育課程においては該当する授業科目はない。	
(6) (5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。（複数チェック■可）	◇チェックした方策の具体的な内容がわかる資料		
<input type="checkbox"/> 授業外学習の必要性の周知	<u>該当しない</u>	2020年度卒業・2016年度入学の教育課程においては該当する授業科目はない。	
<input type="checkbox"/> 事前学習の徹底			
<input type="checkbox"/> 事後展開学習の徹底			
<input type="checkbox"/> 授業外学習の時間の把握			

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

□ その他			
	◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。		

5-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

シラバス作成ガイドラインにもとづき授業担当がシラバスを作成していることを確認するために、科目開設学科長を中心に学科におけるシラバスの組織的な点検を実施し、教務主事へ点検状況を報告している。

資料5-2-特-01 シラバス2020の点検について(依頼)
資料5-2-特-02 シラバス2020の点検報告(例示:電気工字科字科)

評価の視点

5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、
有効なものとなっていること。

観点5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。

【留意点】

なし。

関係法令 (設)第17条の3

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■ 策定している	◇成績評価や単位認定に関する規程等の該当箇所 <u>資料5-3-1-(1)-01 教務規則()第11条～第22条</u>	教務規則にて「成績評価・進級・卒業認定に関する規定」を整備し、本校HPにて公開している。	
(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。	◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料		

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

<p>■ 行っている</p>	<p><u>資料5-3-1-(2)-01 成績操行会議・及落判定会議・卒業判定会議の開催通知</u></p>	<p>定期試験後の成績操行会議および学年末の及落判定会議（5年生は卒業判定会議）において、規則にもとづき授業科目の単位認定を実施している。なお、授業担当がシラバスの成績評価方法・基準にもとづいて成績評価を実施しているか組織的に点検した実績はあるものの、点検報告書等のエビデンスを消失している。改組や担当者の変更にもなう文書管理の引き継ぎについては今後の課題である。</p>	
<p>(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 (リストから選択してください)</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p>		
	<p><u>該当しない</u></p>	<p>2020年度卒業・2016年度入学の教育課程においては該当する授業科目はない。</p>	
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■ 周知している</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p>		
	<p><u>資料5-3-1-(4)-01 教務規則()第11条～第22条</u></p>	<p>教務規則にて「成績評価・進級・卒業認定に関する規定」を整備し、本校HPにて公開している。</p>	<p>再掲</p>
	<p><u>資料5-3-1-(4)-02 シラバス(I)</u></p>	<p>シラバスを本校HPで公開している。2020年度卒業生のシラバスは2016年度（1年次）～2020年度（5年次）に該当する。</p>	
	<p><u>資料5-3-1-(4)-03 シラバス2020の作成について(依頼)</u></p>	<p>授業初回にてシラバスを配布し、シラバスの記載内容について解説するよう授業担当へ依頼している。</p>	<p>再掲</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■ 把握していない</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p>		
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。 ■ 定めている</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料</p>		
	<p><u>資料5-3-1-(6)-01 教務諸規定()「1試験に関する規程第3条および第4条</u></p>	<p>教務諸規定にて「追試験と再試験」について規定している。追試験については同規定にて成績評価方法を定めているが、再試験については定期試験の得点と差し替えることを原則としているため「シラバス」にもとづき成績評価がなされる。</p>	
<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規程等がわかる資料</p>		

<p>■ ある</p>	<p><u>資料5-3-1-(7)-01 成績通知書に対する意見申立について</u></p>	<p>定期試験（年4回）の後に発行される「成績通知書」の内容に対して学生が意見できる機会として「成績等調査制度」を設けている。</p>
	<p><u>資料5-3-1-(7)-02 教育改善のための意見箱設置について</u></p>	<p>成績等調査制度の他に、教育改善に関する学生の意見を聴取するための制度を運用しており、その中で成績評価結果に対する意見申立が可能となっている。</p>
	<p><u>資料5-3-1-(7)-03 各制度の運用実績について(2016年度～2020年度)</u></p>	<p>2016年度～2020年度において、成績等調査制度による意見申立は0件、教育改善のための意見箱への申請が11件となっている。</p>
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（複数チェック■可）</p> <p><input type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック</p> <p>■ 答案の返却</p> <p>■ 模範解答や採点基準の提示</p> <p><input type="checkbox"/> GPAの進級判定への利用</p> <p><input type="checkbox"/> 成績分布のガイドラインの設定</p> <p><input type="checkbox"/> 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p><u>資料5-3-1-(8)-01 成績評価に関する資料(例示:3CS計算機概論I)</u></p>	<p>定期試験を実施する授業科目については必ず採点済み答案用紙を学生へ返却しているため、学生がシラバスに記載された成績評価方法・基準に基づき、自らの成績評価を検証できる。さらに、担当教員は採点済み答案用紙の他に模範解答や採点基準等の成績評価に関する資料をPDFファイルとして提出する必要があり、第三者による検証が可能となっている。</p>
	<p>(印刷はサンプルのみ)</p>	
	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。</p>	
	<p>成績評価に関する資料をPDFファイルで保存しておくなど、担当教員による成績評価や単位認定を第三者が検証可能な状態であることから、成績評価や単位認定における基準の客観性は担保されている。他方、成績評価に関する資料の組織的な点検や試験問題のレベルが適切であること等のチェックが不十分であり、成績評価や単位認定における基準の厳格性の担保については今後の課題である。</p>	<p>点検を実施しているが報告書等の資料が残っていないものと点検自体を実施していないものを分けて対策を検討する。</p>
	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>	

観点5－3－② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。			
【留意点】 なし。			
関係法令（法）第117条（設）第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条			
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学則等に、修業年限を5年（商船に関する学科は5年6月。）と定めているか。 ■ 定めている	◇学則等の該当箇所がわかる資料		
	<u>資料5-3-2-(1)-01 学則()第2条</u>	学則第2条に修業年限を規定している。	
(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。 ■ 定めている	◇定めている該当規程や卒業認定基準		
	<u>資料5-3-2-(2)-01 教務諸規定()[4]卒業に関する規程</u>	教務諸規定にて「卒業に関し必要な事項」について規定している。	
(3) 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 ■ 認定している	◇関係する委員会等の会議資料		
	<u>資料5-3-2-(3)-01 成績操行会議・及落判定会議・卒業判定会議の開催通知</u>	1年次～4年次の卒業に必要な単位修得状況については、各学年末に及落判定会議にて確認している。5年次の卒業に必要な単位修得状況については成績操行会議で確認し、卒業判定会議について卒業に必要なすべての単位修得状況について確認している。ただし、卒業認定において、特別活動（90単位時間以上）の確認を実施しておらず（出欠席の状況を確認し、欠席数が規定の上限値を超えていないことで間接的に確認している）、今後の課題となっている。	再掲
	<u>資料5-3-2-(3)-02 卒業判定調書(例示:2020年度5ME)</u>		
	<u>資料5-3-2-(3)-03 及落判定調書(例示:2019年度4ME)</u>		
(4) 卒業認定基準を学生に周知しているか。	◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料		

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について－1

<p>■ 周知している</p>	<p>資料5-3-2-(2)-01 教務諸規定()[4]卒業に関する規程</p>	<p>教務諸規定にて「卒業に関し必要な事項」について規定し、本校HPにて公開している。</p>	<p>再掲</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>■ 把握していない</p>	<p>◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料</p>	<p>学生の認知状況は学校として把握していない。</p>	
<p>5-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>			
<p>特記事項なし</p>			

基準5

<p>優れた点</p>			
<p>特記事項なし</p>			
<p>改善を要する点</p>			
<p>ディプロマポリシーと各学科の学習・教育到達目標との対応や教育課程の見直しにともなう教育プログラムの更新が不十分であるとともに、その際の議論（議事録）や決定事項をまとめた文書を紛失しており、本校での改組や担当者の変更にとまなう文書管理等を改善する。さらに、卒業生は必修科目および選択必修科目の単位を取得しているものの、どの程度の水準でディプロマポリシーの能力を身につけているか把握できていないので、学習・教育到達目標に関して卒業生が身につけるべき水準を明らかにする必要がある。</p>			

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について-2

基準7 準学士課程の学習・教育の成果

評価の視点 7-1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。			
観点7-1-1-① 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。			
【留意点】 ○ 学生の成績（卒業時のGPA値等。）や原級留置の状況、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。			
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■ 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇体制の整備状況がわかる資料		
	<u>資料7-1-①-(1)-01 成績操行会議・及落判定会議・卒業判定会議の開催通知</u>	本校では、すべての必修科目および選択必修科目の合格をもって、学生が卒業時に身につける最低限の学力を有することを担保している。各科目の合否については成績操行会議にて、当該学年での進級の可否については及落判定会議にて、5年間の教育課程の修了については卒業判定会議にて把握・評価する。	再掲
(2) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか ■ 把握・評価している	◇成績評価・卒業認定等に関するデータ・資料		
	<u>資料7-1-①-(2)-01 及落判定調書（例示：2019年度4ME）</u>	当該学年で修得すべきすべての必修・必修選択科目について単位修得状況を把握し、規則等にもとづき次学年への進級の可否を判断している。	再掲
	<u>資料7-1-②-(2)-02 卒業判定調書（例示：2020年度5ME）</u>	5年間の教育課程で修得すべきすべての必修・必修選択科目について単位修得状況を把握し、規則等にもとづき卒業の可否を判断している。	再掲
(3) (2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■ 認められる	◇把握・評価の実施状況がわかる資料		
	<u>資料7-1-①-(3)-01 及落判定調書（例示：2019年度4ME）</u>	及落判定会議や卒業判定会議では、学生が卒業時に身につける学力に関して、必要最低限の水準を超えていることを確認している。ただし、学力に関して総合的・多面的に丁寧な評価を実施しておらず、また資質・能力についての把握・評価については今後の課題である。	再掲
	<u>資料7-1-②-(3)-02 卒業判定調書（例示：2020年度5ME）</u>		再掲

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について-2

	<p>◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p>		
	<p>学生が卒業時に身につけている学力に関しては、それを把握・評価する体制を整備し、学力が必要最低限の水準を超えていることを確認している。ただし、学力に関して総合的・多面的に丁寧な評価を実施しておらず、資質・能力に関する状況の把握および成果の評価とともに今後の課題となる。</p>		

観点7-1-② 達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。

【留意点】

- (1)の体制の整備が、観点7-1-①と同じ体制で実施されている場合には、観点7-1-①と同じ資料となる。
- (2)(3)(4)は、観点1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 整備していない 	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p>		
<p>(2) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 行っていない 	<p>◇意見聴取の結果に関するデータ・資料</p>		
<p>(3) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業生（卒業後5年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 行っていない 	<p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p>		
<p>(4) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 行っていない 			

観点3：教育課程編成・実施の方針に基づく活動について-2

(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■ 認められない			
	◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。		
	学生や進路先等の学校関係者へのインタビューやアンケート調査を実施する体制・実績ともに確認できない。単位の修得状況の把握・評価だけではなく、多面的な指標による状況把握および評価を必要としている。		

観点7-1-③ 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。

【留意点】なし。

関係法令 (法)第122条 (施)第178条

観点の自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■ 認められる	◇【様式2-4】卒業生進路実績表		
	資料7-1-3-(1)-01 進路実績 (2016年度-2020年度)	入学から卒業までの学修状況を踏まえ、丁寧に分析・評価するためのデータ収集が今後の課題である。	
	資料7-1-3-(1)-02 進路実績からみる学習・教育成果に関する所見	専門分野を学ぶ上で基礎となる知識・技能の習得に力を入れている。その結果として、専門分野だけでなく関連する多様な分野で活躍できる技術者を養成し、幅広い分野の企業や大学へ送り出している。	
(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適合したものとなっているか。 ■ なっている	資料7-1-3-(2)-01 進路実績からみる学習・教育成果に関する所見		再掲
	◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。		
	就職率・進学率ともに他高専と同等に高水準で推移しており、産業界から必要とされる人材を輩出できている。いずれの学科も専門分野を学ぶ上で基礎となる知識・技能の習得に力を入れており、専門分野だけでなく関連する多様な分野で活躍できる技術者の養成を目指している。その結果として、幅広い分野の企業からの採用や大学への進学につながっており、各学科の養成しようとする人材像に適した進路決定となっている。		

7-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。			
特記事項なし			
基準7			
優れた点			
特記事項なし			
改善を要する点			
授業科目の単位取得状況だけでなく、卒業生へのインタビューや進学・就職先による卒業生の評価など多様で多面的な評価の視点も欠けている。			

観点4：入学者受入れの方針に基づく活動について

機関別認証評価基準6 準学士課程の学生の受入れ

評価の視点

6-1 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

観点6-1-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。

【留意点】

○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。

関係法令（設）第3条の2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等。）となっているか。	◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料		
■ なっている	資料6-1-①-(1)-01 募集要項		
	資料6-1-①-(1)-02 規程第098号 準学士課程入学者選抜受入方針規程		
	資料6-1-①-(1)-03 入試面接手順		
	資料6-1-①-(1)-04 入試作問委員会議事録		

観点6-1-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。	◇検証の体制に関する資料		
■ 整備している	検証は募集委員会においてされている。		
	資料6-1-②-(1)-01 学校組織図		
	◇改善に役立てる体制に関する資料		
	資料6-1-②-(1)-02 募集委員会規程		
	資料6-1-②-(1)-03 募集委員会議事録		

観点4：入学者受入れの方針に基づく活動について

<p>(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。</p> <p>■ 行っている</p>	<p>◇検証を行っていることがわかる資料</p> <p>求める学生像に沿った学生が受験しているかについてアンケートを実施している。 資料6-1-②-(2)-01 入試面接アンケートサンプルと集計</p>		
<p>(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立っているか。</p> <p>■ 改善に役立っている</p>	<p>◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立っている状況について、資料を基に記述する。 資料6-1-②-(3)-01 募集要項2015-2018</p> <p>AO入学者選抜による入学学生に対して、アドミッション・ポリシーの1を担保するために、出願資格である基準を超えた模擬試験の回数を1回から2回に増やした。</p>		

観点6-1-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【留意点】

- (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組に特化した組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとしている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。
- (3)の入学定員に対する入学者数は、大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準に照らして、分析すること。

関係法令 (設)第4条の2、第5条第2項 大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準 (平成15年3月31日文科科学省告示第45号)

観点の自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄 (該当する□欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学生定員を学科ごとに1学級当たり40人を標準として、学則で定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	<p>◇学則の該当箇所</p> <p>資料6-1-③-(1)-01 サレジオ高専学則</p>	<p>http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_qakusoku-</p>	

観点4：入学者受入れの方針に基づく活動について

(2) 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇体制の整備に係る規程等がわかる資料		
	資料6-1-③-(2)-01 募集委員会規程		○
(3) 過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■ 適正である	◇【様式2-2】平均入学定員充足率計算表		
	資料6-1-③-(3)-01平均入学定員充足率計算表		
(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■ 行っている	◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する学科について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。		
	資料6-1-③-(4)-01 AMC議事録抜粋		
	資料6-1-③-(4)-02 稟議書		
	実入学者が定員を大幅に超過したことによる教育環境の改善として、教室のサイズを大きくする工事を予定している。		

6-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

特になし			

基準6

優れた点

--	--	--	--

観点4：入学者受入れの方針に基づく活動について

サレジオ工業高等専門学校

改善を要する点			
入学者定員を安定的に確保するような努力を継続的に行っていく必要がある。			

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

機関別認証基準 8 専攻科課程の教育活動の状況

評価の視点
 8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。

観点8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

- 【留意点】**
- 観点1-2-⑤の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。
 - 本評価書I(1)4.において、特例適用専攻科又はJABEE認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

（根拠理由欄）

JABEE認定プログラムの認定に係る結果を利用する。根拠理由：JABEE基準2-1「カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示」に記載のとおり、本カリキュラムにおいて、プログラム修了要件を満たすことにより、学習・教育到達目標を全て達成できるように設計されている。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■ 配置している	◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料 資料8-1-①-01_JABEE基準2-1.pdf		

観点8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

- 【留意点】**
- 本評価書I(1)4.において、特例適用専攻科又はJABEE認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

（根拠理由欄）

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

サレジオ工業高等専門学校

J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する。根拠理由：JABEE基準2-1「カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示」より、本プログラムは工学（融合複合・新領域）分野であるため、専攻科では自身が準学士課程において専攻してきた分野だけでなく、他の分野を学習し、これらを複合化する必要がある。主たる専攻の分野と他分野の科目は準学士課程卒業学科によって異なり、また分野別要件として、「基礎工学の知識・能力科目には、①設計・システム系科目群、②情報・論理系科目群、③材料・バイオ系科目群、④力学系科目群、⑤社会技術系科目群の5科目群があるが、各科目群から少なくとも1科目、合計最低6科目以上を修得していること」が明記されるなど、他分野科目を含め幅広い分野の科目を修得することがプログラム修了要件の一つとなっている。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。 ■ 考慮している	◇連携及び発展等の考慮状況がわかる資料 資料8-1-②-01 JABEE基準2-1.pdf 資料8-1-②-02 シラバス2021.pdf		○

観点8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。

【留意点】

- 本評価書I(1)4.において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

（根拠理由欄）

J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果、特例適用専攻科の申請結果を利用する。根拠理由：専攻科は講義30、演習8、実験実習18（1は22.5時間）で構成されており、特例適用専攻科の基準も見たいしていることから、バランスが適切であると考える。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■ 採用されている	◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料 資料8-1-③-01 シラバス2021.pdf		○
	◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。		
(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（複数チェック■可） □ 教材の工夫	◇チェックした項目の実施状況がわかる資料		

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

<input type="checkbox"/> 少人数教育 <input type="checkbox"/> 対話・討論型授業 <input type="checkbox"/> フィールド型授業 <input type="checkbox"/> 情報機器の活用 <input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮 <input type="checkbox"/> 一般科目と専門科目との連携 <input type="checkbox"/> その他			
	◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。		

観点8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

【留意点】

- 教養教育の実施状況や学生の研究指導が、学校教育法上の目的及び学校の教育の目的を達成する上で適切なものであるかどうかを分析すること。
- 本評価書Ⅰ(1)4.において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

関係法令（法）第119条第2項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

（根拠理由欄）

特例適用専攻科の認定に係る結果を利用する。根拠理由：電気電子工学区分の教員11名、情報工学区分教員4名で専攻科の特別研究を実施しており、各個票に教員の専門に合わせた研究教育手順が示されている。学生は各教員の個票に従って研究活動を行い、毎年学会にも参加している。また、各科目の詳細な内容についてはシラバスを参照されたい。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 ■ 行っている	◇教養教育や研究指導の実施状況がわかる資料 資料8-1-④-01 特例適用専攻科申請書（個票）.pdf 資料8-1-④-02 シラバス2021.pdf		○

観点8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。

【留意点】

- 本評価書Ⅰ(1)4.において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>■ 満たしていると判断する</p> <p>（根拠理由欄）</p> <p>J A B E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する。根拠理由：「学習・教育到達目標と評価方法及び評価基準（全体）」より、成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定されている。同内容についてはシラバスの説明と共に学生に周知されている。</p>			
<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p>■ 策定している</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規程等の該当箇所</p> <p>資料8-1-⑤-01 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準.pdf</p>		
<p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p>（リストから選択してください）</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p>		
<p>(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p>（リストから選択してください）</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p>		
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p>（リストから選択してください）</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p>		
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>（リストから選択してください）</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p>		
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。</p> <p>（リストから選択してください）</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料</p>		

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 (リストから選択してください)	◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規程等がわかる資料		
(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(複数チェック■可) <input type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック <input type="checkbox"/> 答案の返却 <input type="checkbox"/> 模範解答や採点基準の提示 <input type="checkbox"/> G P A の進級判定への利用 <input type="checkbox"/> 成績分布のガイドラインの設定 <input type="checkbox"/> 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック <input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック <input type="checkbox"/> その他	◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。 ◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。		

観点8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。

【留意点】
 ○ 本評価書 I (1) 4. において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。

関係法令 (法)第119条第2項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 ■ 満たしていると判断する

(根拠理由欄)
 J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する。根拠理由：HPで公開されているディプロマポリシーに従って、修了認定が適切に策定され実施されている。また「生産システム工学教育プログラムの修了要件」が書かれた「履修の手引き」は学生に配布されている。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
--------------------------	-------------------	----	----

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

サレジオ工業高等専門学校

(1) 学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。 (リストから選択してください)	◇学則等の該当箇所がわかる資料		
	学則 サレジオ高専 公式サイト		
	資料8-1-⑥-01 履修の手引.pdf		
(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。 (リストから選択してください)	◇定めている該当規程や修了認定基準		
	3つのポリシー サレジオ高専 公式サイト	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/diploma_policy.html	
(3) 修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 (リストから選択してください)	◇関係する委員会等の会議資料		
(4) 修了認定基準を学生に周知しているか。 (リストから選択してください)	◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料		
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 (リストから選択してください)	◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料		

8-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。
特に専攻科課程の教育課程及び教育方法に関して、準学士課程の5-1及び5-2の内容を参考に、特記すべき個性や特色等があれば、自由に記入すること。

評価の視点
8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

<p>観点8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。</p>			
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。</p> <p>■ なっている</p> <p>学力については学力試験を実施し（専攻科募集概要）、本学卒業者を対象に行われる学力試験免除の選抜方法では、準学士課程の成績および面接試験の結果で判定を行っている（専攻科入試に関する受け入れ方法について）。アドミッション・ポリシーに書かれた学力以外の資質については面接試験において判定している。専攻科会議で検討された入学者選抜方法は学校長の承認を経て入学者選抜に用いられる。専攻科会議では、実施された入学者選抜の結果（基礎学力、主体性、論理的思考、技術者としての姿勢、コミュニケーション能力に対する総合的な評価）を整理し、それを基に入学者判定会議（学校運営会議）において学校長が合格者を決定する。これらの詳細は専攻科入試規程に定められている。</p>	<p>◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料</p>		
	<p>資料8-2-①-01 専攻科入学者選抜事前審査規程.pdf</p>		
	<p>資料8-2-②-01 専攻科募集概要（内部用）.pdf</p>		
	<p>資料8-2-①-03 専攻科入試に関する受け入れ方法について.pdf 資料8-2-①-04 専攻科選抜規程.pdf</p>		
<p>観点8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>なし。</p>			
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。</p>	<p>◇検証の体制に関する資料</p>		

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

<p>■ 整備している</p> <p>入試の面接方法などについては、専攻科担当教員をメンバーとする専攻科会議で議論を行い、見直しや改善を行っている。</p>	資料8-2-②-01 規程第023号 専攻科会議規程.pdf		
	◇改善に役立てる体制に関する資料		
	資料8-2-②-02 専攻科入試に関する受け入れ方法について.pdf		
	資料8-2-②-03 専攻科会議議事録（2019/6/10）.pdf		
<p>(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。</p> <p>■ 行っている</p> <p>成績票かや達成度チェックシートの実施により、アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているか、また、学生生活を送るうえでどのようなサポートが必要かなど、成績操行会議で検討をしている。</p>	◇検証を行っていることがわかる資料		
	資料8-2-②-04 専攻科 成績操行会議 議事録（2020年度学年末）.pdf		
<p>(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立っているか。</p> <p>■ 改善に役立っている</p> <p>専攻科会議で議論を行い、専攻科入試に関する受け入れ方法を決定した（専攻科会議で検討を行い、専攻科長がAMCへ進言する形をとっている）。現在、同方法を用いて入試を実施し、チェックを行っている</p>			
	資料8-2-②-05 専攻科入試に関する受け入れ方法について.pdf		○
	◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立っている状況について、資料を基に記述する。		

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

観点8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【留意点】
 ○ (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組のためだけの組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会に対応することとなっている場合には、当該委員会に関する規程の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 ■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 ■ 定めている 定員：14名、最大供人数20名+α	◇学則等の該当箇所 資料8-2-③-01 専攻科募集概要（内部用）.pdf		○
(2) 専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■ 整備している 体制として、専攻科担当教員をメンバーとする専攻科会議で検討を行い、専攻科長がAMCへ進言する形をとっている。	◇体制の整備に係る規程等がわかる資料 資料8-2-③-02 専攻科入試に関する受け入れ方法について.pdf		○
(3) 過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■ 適正である 2017年度14名、2018年度10名、2019年度11名、2020年度15名、2021年度22名 2021年度（コロナ禍で例年とは異なる受験者数であった）が大幅に超過しているがそれ以外は定員程度である。	◇【様式2-2】平均入学定員充足率計算表 資料8-2-③-03 平均入学定員充足率計算表.pdf		
(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■ 行っている	◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する専攻について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。		

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

専攻科会議で検討を行い、改善をしている。なお、2021年度（コロナ禍で例年とは異なる受験者数であった）が大幅に超過しているがそれ以外は定員程度である。現在、奨学生の基準の見直しを行っている。	資料8-2-③-04 専攻科入試に関する受け入れ方法について.pdf		○
	資料8-2-③-05 専攻科会議議事録（2019/6/10）.pdf		○

8-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点

8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。

観点8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

○ 学生の成績（修了時のGPA値等。）や修業年限内修了率、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■ 整備している 特別研究担当教員による評価体制を整備している	◇体制の整備状況がわかる資料 資料8-3-①-01 専攻科 成績操行会議 議事録（2020年度学年末）.pdf		○
(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 ■ 把握・評価している 「専攻科修了判定会議」において成果、把握・評価を行っている	◇成績評価・修了認定等に関するデータ・資料 資料8-3-①-02 専攻科 成績操行会議 議事録（2020年度学年末）.pdf		○

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

(3) (2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■ 認められる	◇把握・評価の実施状況がわかる資料		
	<u>資料8-3-①-03 修了判定会議成績一覧表</u>		
	◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。		

観点8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

- (1)の体制の整備が、観点8-3-①同じ体制で実施されている場合には観点8-3-①と同じ資料となる。
- (2)(3)(4)は、観点1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■ 整備している 達成度評価シートの実施：指導教員と学生間で達成度評価シートを基に面談が行われ、その結果がコメント欄に記述される。達成度評価シートについては教育システム委員会	◇体制の整備状況がわかる資料		
	<u>資料8-3-②-(1) 達成度チェックシート（サンプル）</u>		
	学校組織 サレジオ高専 公式サイト http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/organization.html		
(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■ 行っている 達成度評価シートの実施により、学生の自己評価も把握している。その結果、学習・教育・研究の成果が認められると判断する。	◇意見聴取の結果に関するデータ・資料		
	<u>資料8-3-②-(2) 達成度チェックシート（サンプル）</u>		○

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

<p>(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■ 行っていない 今後の検討とする。</p>	<p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p>		
<p>(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■ 行っていない 今後の検討とする。</p>	<p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p>		
<p>(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p>■ 認められない</p>	<p>◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p>		

観点8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】なし。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p>■ 認められる</p>	<p>◇【様式2-4】修了者進路実績表</p> <p>資料8-3-③-(1) 修了者進路実績表</p>		
<p>(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適合しているか</p> <p>■ なっている</p>	<p>◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像に合った成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。</p>		

観点3：教育課程編成実施の方針に基づく活動 観点4：入学者受入れの方針に基づく活動 について（専攻科）

サレジオ工業高等専門学校

--	--	--	--

観点8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。

【留意点】

○ 学位の取得を目的としない専攻科については、「学位の取得を目的としないので、該当しない」の欄をチェックすること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する <input type="checkbox"/> 欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1)過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 ■ 認められる 過去5年間。修了生は全員学位取得している。	◇学位取得状況がわかる資料 <u>資料8-3-④-(1) 専攻科課程修了者数及び学位取得率.pdf</u>		

8-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

基準8

優れた点

達成度チェックシートを用いた学生の自己点検とそれを基に行っている指導教員とのディスカッションは学生が目標とする技術者像へ近づくための方法として有用であるとする。

	<u>資料8 達成度チェックシート（サンプル）</u>		○
--	-----------------------------	--	---

改善を要する点

カリキュラム変更方法やそれを点検するシステムについて今後検討する必要がある。また、修了生や進路先関係者に対する調査を継続して行っていく必要がある。

--	--	--	--

観点5：研究活動支援の方針に基づく活動について

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

機関別認証選択的評価事項 A 研究活動の状況

評価の視点

A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。

観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。

【留意点】

○ 個々の研究者の持つ研究目的ではなく、学校全体として独自に定めた研究活動を位置付ける目的等を定めていることが求められる。

関係法令（設）第2条第2項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■ 定めている 教員の研究力を高め、その研究活動を教育の質の改善に役立てることを目的とする。	◇定めていることがわかる資料 資料A-1-①-(1)-01 サレジオ工業高等専門学校研究委員会規 資料A-1-①-(1)-02 規程第058号 サレジオ工業高等専門学校 課題研究費規程		

観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

【留意点】

- 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。
- 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。
- 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。

関係法令（設）第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 ■ 整備している 本校には各科、各部署から選出された委員で構成される研究委員会が設けられており、種々な研究活動の支援を行っている。	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料 資料A-1-②-(1)-01 サレジオ工業高等専門学校研究委員会規 資料A-1-②-(1)-02 規程第058号 サレジオ工業高等専門学校 課題研究費規程 資料A-1-②-(1)-03 2019-04-20 第1回研究委員会 議事録		○ ○

観点5：研究活動支援の方針に基づく活動について

<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p>■ 整備している</p> <p>研究室、共用研究室（情報館、無響温室、アーク溶解炉、高電圧発生装置、NC加工室、暗室など）</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <p><u>資料A-1-②-(2)-01 施設・設備 サレジオ高専 公式サイト</u></p>		
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■ 整備している</p> <p>研究活動を行うための支援として課題研究費、外部講師による科研費申請執筆講習会、学生の学外発表を支援する課題研究予備費、外部資金申請に関する情報共有メール、査読論文掲載料補助等があげられる</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p><u>資料A-1-②-(3)-01 サレジオ工業高等専門学校研究委員会規</u></p> <p><u>資料A-1-②-(3)-02 外部講師による科研費申請執筆オンライン講習会（2019-07-22 第3回研究委員会 議事録）</u></p> <p><u>資料A-1-②-(3)-03 課題研究予備費（学生の学外発表）の執行について（2019-06-10 第2回研究委員会 議事録）</u></p> <p><u>資料A-1-②-(3)-04 外部資金に関する情報展開メール</u></p> <p><u>資料A-1-②-(3)-05 査読論文掲載料（【公開版】査読論文掲載料に関する補助金制度のご案内）</u></p>		○
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■ 行われている</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p><u>資料A-1-②-(4)-01 サレジオ高専HP/公式研究ポータルサイト</u></p> <p><u>資料A-1-②-(4)-02 サレジオ高専HP/産学官連携について</u></p>		

観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。

【留意点】

- 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。
- 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p>■ 得られている</p>	<p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <p><u>資料A-1-③-(1)-01 サレジオ高専HP/公式研究ポータルサイト</u></p>		

観点5：研究活動支援の方針に基づく活動について

<p>ポータルサイトに示すように研究力の向上や教育の質の向上、学生の研究活動、表彰等が得られているが、その評価値などは現時点で出して位はいない。これは今後の課題になると思われる。</p>			

観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

- 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。
- 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。
- 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 整備している 	<p>◇改善の体制がわかる資料</p>		
<p>研究活動の公開の場として、学会に所属していない教員については研究紀要の執筆を促し、それに伴い研究費として課題研究費を支給するなど研究の推進体制がある。また、すでに研究を実施している教員については研究不正に関する研修や科研費の申請に関する勉強会などを行っている。</p>	<p>資料A-1-④-(1)-01 規程第058号 サレジオ工業高等専門学校 課題研究費規程</p>		○
	<p>資料A-1-④-(1)-02 規程第097号 不正防止計画推進部署規 資料A-1-④-(1)-03 外部講師による科研費申請執筆オンライン 講習会（2019-07-22 第3回研究委員会 議事録）</p>		
<p>研究紀要投稿数の減少に伴い、研究紀要を活性化させるだけでなく、研究紀要を研究経験の少ない教員に対する論文投稿の練習となるように種々な改定を行った</p>	<p>資料A-1-④-(1)-04 研究紀要の改定（2019-4-20「研究紀 要」の改定について）</p>		

A-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

--

観点5：研究活動支援の方針に基づく活動について

サレジオ工業高等専門学校

選択的評価事項A 目的の達成状況の判断			
■ 目的の達成状況がおおむね良好である			
選択的評価事項A			
優れた点			
研究紀要を研究経験の少ない教員の論文投稿の場として改定した。また、研究紀要投稿を条件に課題研究費の申請資格としている。			
	資料A-1-01	2019課題研究費公募要領	
改善を要する点			
研究活動の支援は十分であるとは言えない。研究日（裁量日）を設けてはいるが、十分な研究時間を確保できていないとせず、担当授業数の調整など課題は多い。また、研究力向上などに関する評価値などは設けておらず、これについても改善が必要であると考える。			

(様式 2)

高等専門学校現況表（令和2年5月1日現在）

事項		記入欄										備考		
フリガナ設置者		ガッコウホウジン イクエイガクイン 学校法人 育英学院												
フリガナ高等専門学校の名称		サレジオコウギョウコウトウセンモンガッコウ サレジオ工業高等専門学校										併設校：		
高等専門学校本部の所在地		東京都町田市小山ヶ丘4-6-8												
教育組織及び教員・教育支援者等	准学士課程	学科の名称	修業年限	学級数	入学定員	編入学定員 (年次) 人 (3年次)	学生定員	称号	平均入学定員充足率	開設年度	別地校地	所在地		
		デザイン学科	5	1	45	0	225	准学士	0.89	1963		東京都町田市小山ヶ丘4-6-8		
		電気工学科	5	1	45	0	225	准学士	0.79	1963				
		機械電子工学科	5	1	45	0	225	准学士	1.10	1990				
		情報工学科	5	1	45	0	225	准学士	1.06	1990				
計	—	—	180	—	—	900	—	—	—	—	—			
【基準2・6・8】	専攻科課程	専攻の名称	修業年限	入学定員	編入学定員 (年次) 人	学生定員	平均入学定員充足率	開設年度	別地校地	基礎学科等名称				
		生産システム工学専攻	2	14	—	28	0.98	2001						
		計	—	—	—	—	—	—	—					
学生募集停止中の学科・専攻														
教育組織及び教員・教育支援者等	【基準2】	准学士課程（一般科目担当）	学科等の名称		専任教員						助手	非常勤教員		
			教授	准教授	講師	助教	計	基準数						
			一般教育科文系	4人	5人	2人	1人	12	—人	0人	17人			
			一般教育科理系	3	2	3	2	10	—	0	2			
			計	7	7	5	3	22	18					
	※別地校地を有する学科等の名称		学級数	教授	准教授	講師	助教	計	複数の校地において教育を行う専任教員は教授○人		助手	非常勤教員		
			学級	人	人	人	人	人	人	人	人	人		
	【基準2】	准学士課程（専門科目担当）	学科等の名称		専任教員						助手	非常勤教員		
			教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち教授・准教授					
			デザイン学科	1人	6人	0人	0人	7人	—人	—人	0人	7人		
電気工学科			4	1	3	0	8	—	—	0	5			
機械電子工学科			2	3	1	1	7	—	—	0	5			
情報工学科	4	2	2	0	8	—	—	0	5					
計	11	12	6	1	30	29	23	0	22					
※別地校地を有する学科等の名称		学級数	教授	准教授	講師	助教	計	複数の校地において教育を行う専任教員は教授○人		助手	非常勤教員			
		学級	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
教員以外の職員等	職種		専任			非常勤			計					
	事務職員（うち主に教育支援者）		23（11）人			11（6）人			34（17）人					
	技術職員（うち主に教育支援者）		0（0）			3（0）			3（0）					
	図書館専門的職員（うち司書資格保有者）		0（0）			2（1）			2（1）					
	その他の職員		0			0			0					
計		23			16			39						

準学士課程の学習・教育の成果等 【基準7・8】	準学士課程	年度	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学希望者数	進学者数	進学率	主な就職先業種	主な進学先の学部・専攻科等
		2020年度	161	97	92	94.8	56	56	100.0	・学術研究・専門・技術サービス業 ・製造業 ・情報通信業	・工学部 ・理工学部 ・情報学部 ・芸術学部 ・生産システム工学科
		2019年度	150	91	87	95.6	55	53	100.0		
		2018年度	153	102	102	100.0	46	46	100.0		
		2017年度	129	92	92	100.0	32	32	100.0		
		2016年度	149	99	99	100.0	46	46	100.0		
	計		481	472	[平均] 98.8	235	233	[平均] 100.0			
	専攻科課程	年度	修了者数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学希望者数	進学者数	進学率	主な就職先業種	主な進学先の研究科等
		2020年度	11	6	6	100.0	5	5	100.0	・学術研究・専門・技術サービス業 ・情報通信業	情報生産システム研究科、電気電子情報工学専攻
		2019年度	10	7	7	100.0	3	3	100.0		
2018年度		13	5	5	100.0	8	8	100.0			
2017年度		11	4	4	100.0	7	7	100.0			
2016年度		4	3	3	100.0	1	1	100.0			
計		25	25	[平均] 100.0	24	24	[平均] 100.0				
学生環境及び学習支援等 【基準3】	校地等	区分		基準面積	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	学生寮		
		校舎敷地面積		—	10,039 m ²	m ²	m ²	10,039 m ²			
		運動場用地		—	12,798			12,798			
		校地面積計		m ²	22,837			22,837			
		その他敷地面積		—	2,103 m ²	m ²	m ²	2,103 m ²			
	校舎面積等	区分		基準面積	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	準校舎棟 夢工房		
		校舎棟		— m ²	14,079.00 m ²	m ²	m ²	14,079.00 m ²			
		校舎面積計		—							
		その他の建物		—	4,622.00 m ²	m ²	m ²	4,622.00 m ²			
					596.00 m ²			596.00 m ²			
校舎等	区分	校長室	教員室	会議室	事務室	保健室	学生控室				
	校舎棟	1室	10室	8室	3室	1室	1室				
	その他の建物				1室						
	区分	講義室	演習室	実験・実習室	研究室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	校舎棟	26室	9室	24室	29室	2室	1室				
図書館・図書資料等	図書館等の名称	面積	閲覧座席数	開館時間							
	サレジオ高専図書館	374 m ²	46席	平日 9:00~19:00 土曜 10:00~15:00(特定土曜日のみ開館)							
	図書館等の名称	図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料その他						
	サレジオ高専図書館	52,497 [3681] 冊	107 [5] 種	82 [0] 種	点						
	計	52,497 [3681]	107 [5]	82 [0]							
附属施設等	体育館・講堂・寄宿舎・課外活動その他の厚生補導に関する施設										
	サレジオ高専	体育館、剣道場、柔道場・ホール・学生寮・学生食堂・カウンセリング室									
	区分	附属施設・センター等の名称									
	基準施設	なし									
	その他の施設	なし									
その他の事項											

平均入学定員充足率計算表

課程	学科・専攻名	項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	入学定員に対する 各平均比率
準学士	デザイン学科	入学者数	37	41	36	50	38	0.89
		入学定員	45	45	45	45	45	
		入学定員充足率	0.82	0.91	0.8	1.11	0.84	
	電気工学科	入学者数	40	48	25	44	23	0.79
		入学定員	45	45	45	45	45	
		入学定員充足率	0.88	1.06	0.55	0.97	0.51	
	機械電子工学科	入学者数	40	62	48	58	43	1.10
		入学定員	45	45	45	45	45	
		入学定員充足率	0.88	1.37	1.06	1.28	0.95	
	情報工学科	入学者数	63	48	47	42	40	1.06
		入学定員	45	45	45	45	45	
		入学定員充足率	1.40	1.06	1.04	0.93	0.88	
	合計	入学者数	180	199	156	194	144	0.96
		入学定員	180	180	180	180	180	
		入学定員充足率	1.00	1.10	0.86	1.07	0.80	
専攻科	生産システム工学	入学者数	12	10	11	15	21	0.98
		入学定員	14	14	14	14	14	
		入学定員充足率	0.85	0.71	0.78	1.07	1.50	
		入学者数						
		入学定員						
		入学定員充足率						
		入学者数						
		入学定員						
		入学定員充足率						
		入学者数						
		入学定員						
		入学定員充足率						

1-1. 一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目（一般教育科・文系）

2020年4月1日現在

	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目（準学士課程）	担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格	備考
専 任 教 員	小島 知博	教授	修士 (神学)	校長 入試募集本部長 学校運営会議主宰 危機管理委員長 SD委員長 知的財産委員	神学	倫理		有	高等学校 教諭一種 免許(国 語) 高等学校 教諭一種 免許(宗 教)	カトリック司祭
	北川 大介	講師	学士 (理学) 学士 (神学)	校長補佐(チャブレン) 宗務主事 クラブ顧問(吹奏楽部) 司牧委員長 学校運営委員 危機管理委員 知的財産委員 ハラスメント対策委員 学生支援委員	神学	倫理		有	高等学校 教諭一種 免許(国 語) 高等学校 教諭一種 免許(宗 教)	カトリック司祭
	鎌田 俊司	教授	修士 (教育学)	学生主事 労働安全衛生管理者 学校運営委員 学生会会リーダ 危機管理委員 教育システム委員 知的財産委員 ハラスメント対策委員 安全衛生委員	スポーツ科 学、コーチ ング学、ス ポーツ心理 学	保健体育 体育実技		有	高等学校 教諭専修 免許(保 健体育) 、日本 サッカー 協会B級 コーチ、 衛生管理 者	実業団、 大学での サッカー 指導経験
	石田 毅	教授	修士 (アメリカ研究)	一般教育文系科長 教務担当(一般教育科・人文社会) 教育システム委員 募集委員(一般教育科) 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者(バレーボール部)	外国語教 育、異文化 コミュニ ケーション	国語 英語 選択英語Ⅱ(4年) 韓国語Ⅱ(5年)			実用技能英 語検定1級、 日本語教育 能力検定、 TOEIC990 点、ハンク ル能力検定 準2級	
	村田 昌巳	教授	博士 (日本語学)	学生支援センター長 クラブ顧問(バスケット ボール部) 国際交流委員	日本語学、 異文化コ ミュニケー ション	国語			日本語教育能力 検定、高等学校 教諭一種免許 (国語)、実用 英語技能検定1 級、 International English	
	相川 智洋	准教授	修士 (教育学)	プレテック主事補(2学年主任) クラブ顧問(バドミントン 部) 教育規定プロジェクトオブザーバー	国語教育、 コミュニ ケーション 教育	国語			高等学校 教諭専修 免許(国 語) 中学校 教諭専修 免許(国 語)	
	高野 修	准教授	修士 (スポーツ健康科学)	募集統括長 クラブ顧問(バレーボール 部) 教務担当(一般教育科・体 育) 募集委員長 入試募集本部メンバー	スポーツ経 営組織学、 スポーツ心 理学、ス ポーツ社会 学	保健体育 体育実技			高等学校教諭専 修免許(保健体 育)、日本バ レーボール協会 公認B級審判、講 義部柔道初級、 公認インストラ クター	
	Marques Luis	准教授	修士 (社会科学)	国際交流センター長 IUS Coordinator 司牧委員 IUSプロジェクトリーダー	国際交流 (フィリピン と東チ モールにお ける技術教 育)	英語	英語Ⅱ(専攻科)		普通会計、 ポルトガル 語、英語、 体育科教員 免許、 イタリア 語、スペイン 語	既得外国語: ポルトガル 語、英語、 イタリア 語、ス페인 語
	山館 順	准教授	文学修 士	学級担任(2AD) クラブ顧問(映像研究部) メディア委員 基礎教育委員	歴史学 技術思想史 技術社会史	歴史 技術者倫理(AD) 選・経済学			高等学校教 諭二級普通 免許(社 会) 中学校教諭 一級普通免 許(社会)	
	真島 頸子	准教授	博士 (文学)	学級担任(5ME) 学校プロジェクト指導 (全国高専ブレコン) 司牧委員 応用技術委員 教育規定プロジェクトメンバー	英語史、英 語学、英語 教育	英語 英語演習 選択英語Ⅱ(5年)			高等学校 教諭専修 免許(英 語)、 実用英語 技能検定 1級	
	松尾 貴哲	講師	修士 (文学)	クラブ顧問(モダンダンス 部) 教務担当(一般教育科・外国語) 国際交流委員	言語学、認 知語用論、 関連性理論	英語 選択英語Ⅴ(4年、5年)	英語Ⅰ(専攻科)		高等学校 教諭専修 免許(英 語)	
	大野 達哉	助教	博士 (スポーツ健康科学)	クラブ顧問(剣道部) 学生担当(プレテック) 安全衛生委員	剣道、コー チング	保健体育 体育実技			高等学校教諭専 修免許(保健体 育)、特別支援 学級教諭一種、 第一種衛生管理 者、剣道五段、 モンテッソーリ インストラク ター	
	宮下 大夢	助教	博士 (社会科学)	学級担任(1B) クラブ顧問(ハンドボール部) 国際交流委員 基礎教育委員	国際協力、 平和構築論	英語 選択英語Ⅲ(4年、5年)			高等学校教 諭専修免許 (公民) 高等学校 教諭一種 免許(地 理歴史)	

非常勤 教員	小野 凌也	非常勤講師	学士		健康科学	体育実技				高等学校教諭一種免許(保健体育) 中学校教諭一種免許(保健体育)	
	Karla Ryan	非常勤講師	学士		英語教育	英語					
	Calvin Burchfiel	非常勤講師	学士		英語教育	英語 選択英語 I (4年.5年)					
	河田 綾	非常勤講師	博士(文学)		日本近現代文学	国語				中学・高校教諭専修免許(国語)	
	岸 洋一	非常勤講師	学士		英語教育	英語 英語演習 選択英語IV (4年.5年)				高等学校教諭一種免許(英語)、実用英語技能検定準1級、TEFL100点	
	神戸 和佳子	非常勤講師	修士(教育学)		教育学、基礎教育	地理・歴史				高等学校教諭一種免許(公民)	
	Conrad McPhail	非常勤講師	学士		英語教育	選択英語VI(4年.5年)					
	James Au	非常勤講師	修士		日本文学 比較文学 英米文学	英語			有		
	Joel Kirkham	非常勤講師	学士(Design)			デザイン				有	
	武井 俊裕	非常勤講師	学士(武道学)		武道学	保健体育 体育実技					
	中根 弘之	非常勤講師	修士(文学)			哲学	心理学(4・5年)				
	中村 孝子	非常勤講師	修士(文学)			宋代文学 日本漢学	中国語 I (4・5年)				
	野島 伸仁	非常勤講師	学士			英米文学	英語	伝統文化特論(専攻科)		有	高等学校教諭二級普通免許(英語) 能楽師(狂言師)
	濱邊 正	非常勤講師	学士			社会学、神学	地理・歴史				高等学校教諭一種免許(社会) 中学校教諭一種免許(社会)
	Paul McCann	非常勤講師	学士			英語教育	英語				
	茂木 康嘉	非常勤講師	博士(スポーツ科学)			スポーツ科学	体育実技				
	柳澤 秀一	非常勤講師	修士(国際関係論)			西洋史	歴史				
	大和 正博	非常勤講師	法学修士			法学(民法)	法学				

1-1. 一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目（一般教育科・理系）

2020年4月1日現在

	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目（準学士課程）	担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格	備考
専任教員	佐藤 豊	教授	修士（工学）	一般教育理系科長 学級担任（4CS） 教育システム委員 メディア委員 クラブ活動協力者（バドミントン部）	教育工学	微分積分学 解析学Ⅱ 解析学Ⅲ（CS） 卒業研究			高等学校教諭一種免許（数学）、第二種情報処理技術者	
	伊藤 光雅	教授	博士（理学）	ブレック主事 クラブ顧問（ワンダーフォーゲル部） 研究委員 司教委員 国際交流委員 野尻湖実行委員長	物理教育学、固体地球惑星物理学、教育学、教育学、地質学、比較教育学	基礎物理Ⅰ 基礎物理Ⅱ 物理 自然科学概論（AD） 卒業研究	専攻実験（専攻科）		漢字検定準一級	
	米山 秋文	教授	学士	寮務主事 クラブ顧問（剣道部） キャリア委員 メディア委員 寮務部会リーダー	情報システム管理、情報セキュリティ管理	情報倫理				
	真島 裕樹	准教授	博士（理学）	教務主事補 クラブ顧問（天文部） 教務担当（一般教育科・理科） 学生支援委員（教務部） 教育規定プロジェクトメンバー	非平衡統計力学、開放量子系の理論、熱場の量子論	基礎物理Ⅰ（1年） 基礎物理Ⅰ 基礎物理Ⅱ 自然科学概論（AD） 卒業研究	物理学特論Ⅰ（専攻科）			
	大屋 博一	准教授	博士（理学）	ブレック主事補（1学年主任） クラブ顧問（卓球部）	関数解析、非線形偏微分方程式、数理生態学	基礎数学Ⅰ 解析学Ⅰ 代数幾何学	数学特論Ⅰ（専攻科） 数学特論Ⅱ（専攻科）		高等学校教諭専修免許（数学） 中学校教諭専修免許（数学）	
	西岡 広志	講師	学士	クラブ顧問（陸上部） キャリア委員 基礎教育委員	教育工学	微分積分学 基礎数学Ⅱ 応用数学B			高等学校教諭一種普通免許（数学）	
	亀山 統胤	講師	博士（理学）	学級担任（1A） クラブ顧問（テニス部） 教務担当（一般教育科・数学）	数学、代数学	解析学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 線形代数			高等学校教諭専修免許（数学）	
	花山 康雄	講師	学士	学級担任（3CS） 毒物劇物取扱・放射線管理責任者 寮務会議オブザーバー	化学	情報倫理 化学 自然科学概論（AD）			高等学校教諭一種普通免許（理科）、非種別毒物取扱者、第二種電気工事士	
	中屋敷 亮太	助教	博士（理学）	クラブ顧問（バドミントン部）	非線形偏微分方程式、発展方程式	確率統計学 基礎数学Ⅰ			高等学校教諭専修免許（数学）	
非常勤教員	内山 弘美	非常勤講師	修士（教育学）		化学	化学			高等学校教諭専修免許（理科）	
	田村 隆幸	非常勤講師	博士（理学）		物理学	基礎物理Ⅰ（1年） 物理学 物理学				
	松本 響	非常勤講師	修士（理学）		数学	確率統計学 応用数学A 解析学Ⅱ		有	中学校教諭免許	システムエンジニア
	山本 孝司	非常勤講師	学士		数学	代数幾何学 自然科学概論（AD）			高等学校教諭二級普通免許（数学、理科）	

2-1. 専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (デザイン学科)

2020年4月1日現在

	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目 (准学士課程)	担当授業科目 (専攻科課程)	実務経験	技術資格	備考
専任教員	比留間 真	教授	修士 (工学)	デザイン学科長 教育システム委員 募集委員 (デザイン学科) 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者 (モダンダンス部)	建築意匠、建築史、インダストリアル・デザイン	立体基礎デザイン演習Ⅰ デザイン実習Ⅰ (立体) デザイン史 デザイン実習Ⅱ (立体) デザイン方法論 デザイン心理 デザインマネージメント 卒業研究		有		民間企業勤務5年
	氏家 和彦	准教授	学士	学級担任 (4AD) クラブ顧問 (吹奏楽部) キャリア委員 メディア担当 (デザイン学科) 地域交流委員 (町田、アレサ)	DTP使用時の印刷向けカラーマネージメントシステム、日本の生活文化に関連した伝達物、生活雑貨	情報処理 DTP概論 デザイン実習Ⅲ (平面) コンピュータグラフィックスⅢ (平面) 経営論 マーケティング 卒業研究 マーケティング論 (CS)		有		マツダ自動車勤務10年 個人事務所経営15年
	イ・ソンヒ	准教授	修士 (芸術学)	学級担任 (3AD) アート同好会顧問 教務担当 (デザイン学科)	グラフィックデザイン、デザイン教育、色彩デザイン	基礎デザイン4 (色彩構成) 立体基礎デザイン演習Ⅲ デザイン実習Ⅰ (平面) 色彩学 色彩構成 卒業研究			カラーコーディネーター検定3級	
	川崎 紀弘	准教授	修士 (教育学)	クラブ副顧問 (モダンダンス部)	エディトリアルデザイン、教科書のデザイン、ワークショップデザイン、デザインのキャリア開発と授業設計	造形論 応用デザイン実習Ⅰ (平面) 応用デザイン実習Ⅱ		有	DTPエキスパート認証	エディトリアルデザイナークリエイティブ
	坂元 愛史	准教授	芸術学修士	未来戦略総合本部長 クラブ顧問 (写真部) 研究委員	デザイン教育	基礎デザイン1 (立体・平面) 基礎デザイン3 (製図) 制作演習 デザイン方法論 デザイン実習Ⅲ (立体) 卒業研究			高等学校教諭専修免許 (美術)、高等学校教諭専修免許 (工芸)、職業訓練指導員免許 (建築科)、ガクポ研修生、アーク面接技能	
	谷上 欣也	准教授	修士 (工学)	学生主事補 学生担当 (デザイン学科) 学校プロジェクト指導 (全国高専デザコン) 応用技術委員 国際交流委員	工業デザイン学	立体基礎デザイン演習Ⅲ デザイン実習Ⅰ (立体) 制作演習 製図 工業技術概論 デザイン心理 卒業研究			高等学校教諭専修免許 (工業)	
	西野 隆司	准教授	修士 (環境マネジメント)	学級担任 (5AD) クラブ副顧問 (バレーボール部) 司牧委員	ものづくり基礎教育、東アジア地域研究、環境政策、地域開発	立体基礎デザイン演習Ⅲ 制作演習 コンピュータグラフィックスⅠ プレゼンテーション 環境論 卒業研究				
非常勤教員	相田 智之	非常勤講師	学士 (芸術)		イラストレーション	基礎デザイン2 (デッサン) 立体基礎デザイン演習Ⅱ		有		
	石黒 猛	非常勤講師	准学士		工業デザイン インターフェイスデザイン	応用デザイン実習Ⅰ (立体) デザイン概論		有		(英) ワイヤワークス (英) IDEo Product Development (日) 石黒商事事務所
	織田 豊一	非常勤講師	准学士		プロダクトデザイン インテリアデザイン	コンピュータグラフィックスⅡ (立体) 応用デザイン実習Ⅱ コンピュータグラフィックスⅢ 制作演習		有	認定ファンリテイマネージャー	(株) 岡村製作勤務経験 公益財団法人東京都中小企業振興公社
	木下 直樹	非常勤講師	学士		空間演出デザイン					
	竹内 明	非常勤講師	准学士		工業デザイン	デザイン実習Ⅱ (立体) 工業デザイン概論 応用デザイン実習Ⅱ		有		日産自動車勤務30年
	三河 一郎	非常勤講師	准学士		グラフィックデザイン イラストレーション コンピューターグラフィックス テクニカルライティング	表現法 コンピュータグラフィックスⅡ (平面)		有		
	最上 知己	非常勤講師	学士 (芸術)		グラフィックデザイン	デザイン実習Ⅱ (平面)				

2-2. 専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（電気工学科）

2020年4月1日現在

	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目（準学士課程）	担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格	備考	
専 任 教 員	加藤 雅彦	教授	博士（工学）	電気工学科長 教育システム委員 募集委員（電気工学科） 毒物劇物取扱・放射線管理担当者 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者（卓球部）	熱電材料、 複合材料	電気エネルギー概論 電気工学実験（4年） 応用物理 電気電子材料 卒業研究 機械工学	生産システム特論（専攻科） 特別研究Ⅰ（専攻科） 特別研究Ⅱ（専攻科） 専攻実験（専攻科） 構造材料（専攻科） 機能材料（専攻科）				
	山下 健一郎	教授	博士（工学）	専攻科長 クラブ顧問（バスケットボール部） 教務担当（専攻科） 教育システム委員 メディア担当（専攻科） IUS-EA0プロジェクトメンバー	再生可能エネルギー、 海洋エネルギー発電、 電気機器、 回転機制御	電気回路 電気エネルギー概論 電気工学実験（3年・4年） 卒業研究	生産システム特論（専攻科） 専攻実験（専攻科） 特別研究Ⅰ（専攻科） 特別研究Ⅱ（専攻科） 電力システム（専攻科） インターンシップ（専攻科） エネルギー変換工学（専攻科）				
	水谷 浩	教授	博士（工学）	応用技術センター長 クラブ顧問（陸上部） 安全衛生委員	マイクロ波工学、ミリ波工学、 MMIC、ワイヤレス電力伝送	電気工学実験（2年・5年） 電気エネルギー概論 電気回路 電子計算機 通信工学概論 卒業研究	生産システム特論（専攻科） 特別研究Ⅰ（専攻科） 特別研究Ⅱ（専攻科） 専攻実験（専攻科） 分布定数回路特論（専攻科）	有	エックス線作業主任者	民間企業勤務20年	
	渡邊 聡	教授	工学修士	キャリアセンター長 学生主事補 クラブ顧問（卓球部） 学生支援委員（学生部）	パワーエレクトロニクス、ベアリングレスモータ、リニアモータ、SRモータ、ソーラーカーの開発、静電電	電気エネルギー概論 電気機器 電気工学実験（3年・4年） パワーエレクトロニクス 卒業研究					
	風間 俊哉	准教授	博士（理学）	学級担任（4EE） 学校プロジェクト指導（全国高専ロボコン） 研究委員 応用技術委員	制御・システム工学、 知能ロボティクス、 教理生物学、 植物生理学	電気工学基礎 情報処理 電気エネルギー概論 電気工学実験（3年・5年） メカトロニクス 自動制御 卒業研究	生産システム特論（専攻科） 特別研究Ⅰ（専攻科） 特別研究Ⅱ（専攻科） バイオメカニクス（専攻科） 機械工学概論（専攻科）			高等学校教諭一種免許（工業）、職業訓練指導員（情報処理科）	
	井組 裕貴	講師	修士（工学）	学級担任（5EE） クラブ顧問（バスケットボール部） 教務担当（電気工学科） キャリア委員 IUS-EA0プロジェクトメンバー	再生可能エネルギー、 色素増感太陽電池、 ソーラーカー、 超小型モビリティ、 エアロダイナミクス、 教育工学	CAD 電気工学基礎 電気工学実験（2年・3年） 創造設計 電気エネルギー概論 メカトロニクス 卒業研究			TOEIC740点		
	吉田 慧一郎	講師	博士（工学）	学級担任（3EE） クラブ顧問（ワンダーフォーゲル部） 学校プロジェクト指導補佐（全国高専ロボコン） 学生担当（電気工学科）	医用画像・ バイオイメージング、 生体情報・計測	電気回路Ⅰ 電気工学実験（2年） 電気エネルギー概論 創造設計 電子回路 電子工学 計測工学 卒業研究	特別研究Ⅰ（専攻科） 特別研究Ⅱ（専攻科） 生産システム特論（専攻科） 計測特論（専攻科） 電気電子回路特論（専攻科）			二級小型船舶操縦士	
	泉 吉紀	講師	博士（理学）	学級担任（2EE） クラブ顧問（メカトロニクス研究部） メディア担当（電気工学科）	物理探査、 地球電磁気学	電気エネルギー概論 電気工学基礎 電気回路 高電圧工学 電気工学実験（2年・5年） 卒業研究	特別研究Ⅰ（専攻科） 特別研究Ⅱ（専攻科） 生産システム特論（専攻科） 環境電磁気学（専攻科）			中型自動車免許（8t限定）	
非 常 勤 教 員	郷 富夫	非常勤講師	博士（工学）		電気機器設計 パルスパワー工学	発変電工学 電力系統工学 電機設計 システム工学		有	技術士（電気電子・機械・総合） 第1種電気主任技術者	（株）東芝勤務（1975年4月～2005年12月）	
	陶山 和信	非常勤講師	修士（工学）		火災科学 防災工学	電気法規 計測工学 電気応用		有	電気工学士 電験三種 消防設備士 数字科教員免許（副教）		
	山本 和義	非常勤講師	理学修士		数理解物 情報教育	電気磁気学（2年・4年）		無			
	米澤 一孝	非常勤講師	修士（文学）		近代哲学 日本思想史 倫理学	技術者倫理		有	知的財産管理技能士	牧田総合病院勤務（10年以上）	
	米田 充彦	非常勤講師	準学士		工業デザイン	卒業研究					

2-3. 専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（機械電子工学科）

2020年4月1日現在

	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目（準学士課程）	担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格	備考
専任教員	富田 雅史	教授	修士(工学)	機械電子工学科長 教育システム委員 募集委員(機械電子工学科) 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者(電子通信部) クラブ活動協力者(ハンドボール部)	電力変換、電気機器、電子機器、教育工学	電気回路Ⅰ 創造演習 電子計算機 計算機プログラミング 創造設計学 卒業研究	専攻演習Ⅰ(専攻科) 専攻演習Ⅱ(専攻科)	有	電気工事士、高圧電気工事技術者、工業英検級、工業英検級システムアドミニストレータ	民間企業勤務3年
	黒木 雄一郎	教授	博士(工学)	教務主事補 学級担任(3ME) クラブ顧問(テニス部) 教務担当(機械電子工学科) 毒物劇物取扱担当者・放射線管理担当者 研究委員 教育規定プロジェクトメンバー	材料工学、発光材料、センサ材料、無機材料、電子状態計算	工学基礎演習 機械電子工学実験(2年・4年) 工業材料 電気磁気Ⅰ 電気磁気Ⅱ 卒業研究	生産システム特論(専攻科) 特別研究Ⅰ(専攻科) 特別研究Ⅱ(専攻科) 半導体工学(専攻科)		第四級アマチュア無線技士	
	吉田 将司	准教授	博士(工学)	学級担任(専攻科) クラブ顧問(陸上部) 学生担当(機械電子工学科) 無線従事者	沿岸におけるセンサネットワークの構築、簡易運動解析に関する研究、GPS自律制御車に関する研究、センサネットワークを用いた環境観測	機械電子工学実験(2年・4年) アンテナ工学 電気回路Ⅱ 卒業研究	生産システム特論(専攻科) 特別研究Ⅰ(専攻科) 特別研究Ⅱ(専攻科) 通信工学特論(専攻科) 応用通信特論(専攻科)		第一級陸上特殊無線技士	
	米盛 弘信	准教授	博士(工学)	研究統括長 学級担任(2ME) クラブ顧問(放送部) 学校プロジェクト指導補佐(全国高専ロボコン) 無線従事者 研究委員長 IUS-EAOプロジェクトメンバー 地域交流委員(八王子)	パワーエレクトロニクス、電磁誘導加熱、太陽光発電	機械電子工学実験(2年・3年・4年) 創造演習 アナログ電子回路 卒業研究	生産システム特論(専攻科) 専攻実験(専攻科) 特別研究Ⅰ(専攻科) 特別研究Ⅱ(専攻科) パワーエレクトロニクス特論(専攻科)		工事担当者(デジタル第3種)、第2種電気工事士、初級教習士(工学、技術)、第二種陸上特殊無線技士、ガス溶接技能	
	三輪 賢一郎	准教授	博士(情報科学)	クラブ顧問(電子通信部)	音声処理、ネットワーク通信	工学基礎 工学基礎演習 機械電子工学実験(2年・3年) 通信工学 創造設計学 電気通信法規 卒業研究	論文購読Ⅱ(専攻科)		電気通信主任技術者(伝送交換)、工学部准主任AI-IO総合種、第一級陸上無線技術士、二級知的財産管理技術士(管理業務)	
	坂口 雅人	講師	博士(工学)	学級担任(4ME) 学校プロジェクト指導(全国高専ロボコン) キャリア委員 応用技術委員	機械材料、材料力学、複合材料工学、医療デバイス、高分子材料	製図 工学基礎 創造演習 機械加工 機械電子工学実験(3年) 機構学 卒業研究	インターンシップ(専攻科) 生産システム特論(専攻科) 専攻実験(専攻科) 特別研究Ⅰ(専攻科) 特別研究Ⅱ(専攻科)			
	廣瀬 裕介	助教	修士(工学)	クラブ副顧問(ハンドボール部) メディア担当(機械電子工学科)	流体力学、熱力学、エンジン工学、OpenFOAMによる数値	工学基礎演習 創造演習 機械電子工学実験(3年) 計算機援用設計 計測工学 卒業研究			乙種第4種危険物取扱者、ガス溶接技士、第三級アマチュア無線技士、第一級陸上特殊無線技士、二級小型船舶操縦士	
	吉野 純一	教授	博士(工学)		電気・電子工学				有機溶剤作業主任者、電気工事技士、ガス溶接技能、電話機アマチュア無線技士	
非常勤教員	阿部 行成	非常勤講師	修士(工学)		制御工学 経営	制御工学		有		三菱重工業(2005~2010) 兼「J」・「H」・「F」(2010~)
	稲毛 達朗	非常勤講師	博士(工学)		人工システム科学	機械電子工学実験(2年)				
	加藤 聖隆	非常勤講師	博士(工学)		電気工学	半導体デバイス			電話機アマチュア無線技士、第2種アマチュア無線技士、有機溶剤作業主任者	
	齋藤 努	非常勤講師	准学士	無線従事者	電気工学	機械電子工学実験(2年) 技術者倫理			電話機無線従事者、特殊無線技士(多量無線設備)、第一級電気工事士、第一級電気工事執行要員	
	武沢 英樹	非常勤講師	博士(工学)		生産工学 加工学	材料力学		有	シニア教育士	自動車部品メーカー勤務(7年)
	西田 英一	非常勤講師	博士(工学)		機械工学	機械電子工学実験(4年) 機械デザイン				
	福岡 久雄	非常勤講師	博士(工学)		情報工学	アルゴリズム理論 デジタル電子回路		有	第一種情報処理技術者 第二種情報処理技術者	三菱電機勤務25年
	山本 崇史	非常勤講師	博士(工学)		振動工学 音響工学	音響工学		有		

2-4. 専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目 (情報工学科)

2020年4月1日現在

氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目 (準学士課程)	担当授業科目 (専攻科課程)	実務経験	技術資格	備考
島川 陽一	教授	博士 (工学)	情報工学科長 教育システム委員 募集委員 (情報工学科) 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者 (剣道部)	数理工学、オペレーションズ・リサーチ	技術文書作成 オペレーションズ・リサーチ I オペレーションズ・リサーチ II 情報工学基礎演習 II 離散数学 I 離散数学 II 統計解析学 I 統計解析学 II 人工知能 II 卒業研究	生産システム特論 (専攻科) 専攻実験 (専攻科) インターンシップ (専攻科) 特別研究 I (専攻科) 特別研究 II (専攻科) 数理計画 (専攻科)		実用英語技能検定準1級、TOEIC790点、カタロニア語検定初級	
山野達 基雄	教授	博士 (理学)	副校長 学校運営委員 教育システム委員長 知的財産委員長 ハラスメント対策委員長 危機管理委員 SD委員	素粒子論、場の理論	情報工学概論 物理 線形代数 I 線形代数 II 情報工学基礎演習 I 物理学特論A 物理学特論B 卒業研究	物理学特論 II (専攻科)		第二種情報処理技術者	
内田 健	教授	修士 (工学)	教務主事 学校運営委員 危機管理委員 教育システム委員 知的財産委員長 ハラスメント対策委員 教務部会リーダー 教務システム改善プロジェクトリーダー 教育規定プロジェクトリーダー クラブ活動協力者 (サッカー部)	計算工学、計算知能	プログラミング基礎 I 計算機概論 I 計算機概論 II 計算機アーキテクチャ I 計算機アーキテクチャ II 情報工学実験 V 情報工学実験 VI 卒業研究	専攻実験 (専攻科) 計算システム論 (専攻科)			
川村 春美	教授	博士 (国際情報通信学)	同好会顧問 (茶道) 教務担当 (情報工学科)	計算論的色彩恒常、色彩工学、視覚情報処理	情報工学実験 I 情報工学実験 II 情報数学概論 情報工学実験 III 情報工学実験 IV 数理工学概論 画像処理 I 画像処理 II 卒業研究	特別研究 I (専攻科) 特別研究 II (専攻科) 生産システム特論 (専攻科) 応用プログラミング (専攻科)		高等学校教諭2級普通免許 (数学)、第一種情報処理技術者、情報処理技術者検定2級、国際連合公用語英検定1級、色彩検定1級、1級カラーコーディネーター (商品色彩)、実用英語技能検定準1級	
大島 真樹	准教授	修士 (工学)	学級担任 (1D) クラブ顧問 (情報研究部)	人工知能分野、制御情報分野	電気回路 III 電気回路 IV 情報工学実験 I 情報工学実験 II 電子回路 情報工学実験 V 情報工学実験 VI OS概論 I OS概論 II 卒業研究			情報処理技術者第二種、情報処理技術者第一種、高等学校教諭一種免許 (情報技術科)、高等学校教諭専修免許 (数学)	
宮田 統馬	准教授	博士 (工学)	学級担任 (5CS) クラブ顧問 (サッカー部) 学生担当 (情報工学科)	デジタル信号処理	信号処理 (ME) 論理回路 I 論理回路 II デジタル回路設計 情報工学実験 V 情報工学実験 VI デジタル信号処理 I デジタル信号処理 II 卒業研究	生産システム特論 (専攻科) 特別研究 I (専攻科) 特別研究 II (専攻科) 信号処理論 (専攻科) 大規模情報処理 (専攻科)		第三級アマチュア無線技士、初級システムアドミニストレータ	
宇都木 修一	講師	修士 (工学)	学級担任 (2CS) 学校プロジェクト指導 (全国高専プロコン) キャリア委員 メディア担当 (情報工学科) 応用技術委員	画像処理、三次元画像計測	プログラミング基礎 I プログラミング基礎 II プログラミング基礎 III 情報工学実験 I 情報工学実験 II 情報処理 (EE) プログラミング応用 III プログラミング応用 IV プレゼンテーション 情報ネットワーク 卒業研究			中型自動車免許 (8t 限定)	
須志田 陸道	講師	博士 (理学)	学級担任 (1C) クラブ顧問 (サッカー部) 学校プロジェクト指導補佐 (全国高専プロコン) 研究委員	現象数理学、計算錯覚学、折り紙幾何学	アルゴリズム論 I アルゴリズム論 II プログラミング応用 I プログラミング応用 II 数値計算 I 数値計算 II 地理情報システム概論 文書作成概論 I 文書作成概論 II 情報工学実験 III 情報工学実験 IV 卒業研究	生産システム特論 (専攻科) 特別研究 I (専攻科) 特別研究 II (専攻科) 情報数学 (専攻科) 数値解析 (専攻科) 論文購読 I (専攻科)		高等学校教諭専修免許 (数学)、中学校教諭専修免許 (数学)	
石川 純夫	非常勤講師	修士 (理学)		物理学	情報工学概論 情報工学実験 III 情報工学実験 IV			第二種電気工事士	
大墨 礼子	非常勤講師	博士 (学術)		情報工学	ソフトウェア工学 I ソフトウェア工学 II				

非常勤 教員	柿本 陽平	非常勤講師	修士(工学)		情報・経営システム工学	情報工学基礎演習Ⅰ 情報工学基礎演習Ⅱ 人工知能Ⅰ				
	小出 由紀夫	非常勤講師	修士(理工学)	基礎教育センター長 寮務委員	情報数理			有		民間企業(1978~1982)
	清水 哲也	非常勤講師	博士(工学)		システム科学		情報ネットワーク特論(専攻科)			
	仙波 良	非常勤講師	工学修士		情報工学	情報社会論 経営工学概論 ビジネス情報システム 技術者倫理		有		技術士(情報部門)、中小企業診断士(情報部門)、 三菱電機の7年間のネットワーク系(約15年勤務) 三菱電機の7年間のネットワーク系(約15年勤務) 第一種情報処理技術者
	永岡 淳一	非常勤講師	修士(理学)		地球科学 人工衛星 データ解析	プログラミング基礎Ⅱ プログラミング基礎Ⅲ データベース 情報通信システムⅠ 情報通信システムⅡ				
	松谷 靖之	非常勤講師	短期大学士		写真工学	映像メディア概論B				
	村尾 裕一	非常勤講師	博士(理学)		情報科学	プログラミング応用Ⅲ プログラミング応用Ⅳ				

2-5. 専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目（専攻科）

2020年4月1日現在

氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目（准学士課程）	担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格	備考
加藤 雅彦	教授	博士（工学）	電気工学科長 教育システム委員 募集委員（電気工学科） 毒物劇物取扱・放射線管理担当者 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者（卓球部）	熱電材料、 複合材料	電気エネルギー概論 電気工学実験（4年） 応用物理 電気電子材料 卒業研究 機械工学	生産システム特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 専攻実験 構造材料 機能材料			
水谷 浩	教授	博士（工学）	応用技術センター長 クラブ顧問（陸上部） 安全衛生委員	マイクロ波 工学、ミリ 波工学、 MMIC、ワイ ヤレス電力 伝送	電気工学実験（2年・5年） 電気エネルギー概論 電気回路 電子計算機 通信工学概論 卒業研究	生産システム特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 専攻実験 分布定数回路特論	有	エックス 線作業主 任者	民間企業勤務20年
山下 健一郎	教授	博士（工学）	専攻科長 クラブ顧問 （バスケットボール部） 教務担当（専攻科） 教育システム委員 メディア担当（専攻科） IUS-EA0プロジェクトメン バー	再生可能エネ	電気回路 電気エネルギー概論 電気工学実験（3年・4年） 卒業研究	生産システム特論 専攻実験 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 電力システム インターンシップ エネルギー変換工学			
風間 俊哉	准教授	博士（理学）	学級担任（4EE） 学校プロジェクト指導 （全国高専ロボコン） 研究委員 応用技術委員	制御・シス テム工学、 知能ロボ ティクス、 数理生物 学、植物生 理学	電気工学基礎 情報処理 電気エネルギー概論 電気工学実験（3年・5年） メカトロニクス 自動制御 卒業研究	生産システム特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ バイオメカニクス 機械工学概論		高等学校 教諭一種 免許（工 業）、職 業訓練指 導員（情 報処理 科）	
泉 吉紀	講師	博士（理学）	学級担任（2EE） クラブ顧問 （メカトロニクス研究部） メディア担当（電気工学科）	物理探査、 地球電磁気 学	電気エネルギー概論 電気工学基礎 電気回路 高電圧工学 電気工学実験（2年・5年） 卒業研究	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 生産システム特論 環境電磁工学		中型自動 車免許 （8L限 定）	
吉田 慧一郎	講師	博士（工学）	学級担任（3EE） クラブ顧問 （ワンダーフォーゲル部） 学校プロジェクト指導補佐 （全国高専ロボコン） 学生担当（電気工学科）	医用画像・ バイオイ メージ ング、生体情 報・計測	電気回路Ⅰ 電気工学実験（2年） 電気エネルギー概論 創造設計 電子回路 電子工学 計測工学 卒業研究	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 生産システム特論 計測特論 電気電子回路特論		二級小型 船舶操縦 士	
黒木 雄一郎	教授	博士（工学）	教務主事補 学級担任（3ME） クラブ顧問（テニス部） 教務担当（機械電子工学科） 毒物劇物取扱担当者・放射線 管理担当者 研究委員 教育規定プロジェクトメンバ ー	材料工学、 発光材料、 センサ材 料、無機材 料、電子状 態計算	工学基礎演習 機械電子工学実験（2年・4年） 工業材料 電気磁気Ⅰ 電気磁気Ⅱ 卒業研究	生産システム特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 半導体工学		第四級ア ーマチュ ア無線技 士	
富田 雅史	教授	修士（工学）	機械電子工学科長 教育システム委員 募集委員（機械電子工学科） 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者（電子通信 部） クラブ活動協力者（ハンドボ ール部）	電力変換、 電気機器、 電子機器、 教育工学	電気回路Ⅰ 創造演習 電子計算機 計算機プログラミング 創造設計学 卒業研究	専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ	電気工事 士、高圧電 気工事技術 者、工業英 検3級、初級 システムア ドミニスト レータ	民間企業 勤務3年	
吉田 将司	准教授	博士（工学）	学級担任（専攻科） クラブ顧問（陸上部） 学生担当（機械電子工学科） 無線従事者	沿岸におけるセン サネットワークの 構築、簡易運動解 析に関する研究、 GPS自律制御車 に関する研究、セ ンサネットワーク を用いた環境観測	機械電子工学実験（2年・4年） アンテナ工学 電気回路Ⅱ 卒業研究	生産システム特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 通信工学特論 応用通信特論		第一級陸 上特殊無 線技士	
米盛 弘信	准教授	博士（工学）	研究統括長 学級担任（2ME） クラブ顧問（放送部） 学校プロジェクト指導補佐 （全国高専ロボコン） 無線従事者 研究委員長 IUS-EA0プロジェクトメン バー 地域交流委員（八王子）	パワーエレ クトロニク ス、電磁誘 導加熱、太 陽光発電	機械電子工学実験（2年・3年・4 年） 創造演習 アナログ電子回路 卒業研究	生産システム特論 専攻実験 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ パワーエレクトロニクス特論		工事担当者 （デジタル 第3種）、第 2種電気工事 士、初級教 育士（工学 技術）、第 二種陸上特 殊無線技 士、ガス溶 接技能	
坂口 雅人	講師	博士（工学）	学級担任（4ME） 学校プロジェクト指導 （全国高専ロボコン） キャリア委員 応用技術委員	機械材料、 材料力学、 複合材料工 学、医療デ バイス、高 分子材料	製図 工学基礎 創造演習 機械加工 機械電子工学実験（3年） 機構学 卒業研究	インターンシップ 生産システム特論 専攻実験 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ			
三輪 賢一郎	准教授	博士（情報科学）	クラブ顧問（電子通信部）	音声処理、 ネットワー ク通信	工学基礎 工学基礎演習 機械電子工学実験（2年・3年） 通信工学 創造設計学 電気通信法規 卒業研究	論文購読Ⅱ		電気通信主任技 術者（伝送交 換）、工事担当 者A1-10種合 格、第一級陸上無線 技術士、二級知 識管理技術士 （管理業務）	

	島川 陽一	教授	博士 (工学)	情報工学科長 教育システム委員 募集委員 (情報工学科) 野尻湖実行委員 クラブ活動協力者 (剣道部)	電気・電子・ 情報・通信工 学	技術文書作成 オペレーションズ・リサーチ I オペレーションズ・リサーチ II 情報工学基礎演習 II 離散数学 I 離散数学 II 統計解析学 I 統計解析学 II 人工知能 II 卒業研究	生産システム特論 専攻実験 インターンシップ 特別研究 I 特別研究 II 数理計画		第二種情 報処理技 術者	
	内田 健	教授	修士 (工学)	教務主事 学校運営委員 危機管理委員 教育システム委員 知的財産委員 ハラスメント対策委員 教務部会リーダー 教務システム改善プロジェクト リーダー 教育規定プロジェクトリーダー クラブ活動協力者 (サッカー 部)	計算工学、 計算知能	プログラミング基礎 I 計算機概論 I 計算機概論 II 計算機アーキテクチャ I 計算機アーキテクチャ II 情報工学実験 V 情報工学実験 VI 卒業研究	専攻実験 計算システム論			
	山野邊 基雄	教授	博士 (理学)	副校長 学校運営委員 教育システム委員長 知的財産委員長 ハラスメント対策委員長 危機管理委員 SD委員	物理学	情報工学概論 物理 線形代数 I 線形代数 II 情報工学基礎演習 I 物理学特論A 物理学特論B 卒業研究	物理学特論 II		第二種情 報処理技 術者	
	川村 春美	教授	博士 (国際情報 通信学)	同好会顧問 (茶道) 教務担当 (情報工学科)	計算論的色 彩恒常、色 彩工学、視 覚情報処理	情報工学実験 I 情報工学実験 II 情報数学概論 情報工学実験 III 情報工学実験 IV 数理工学概論 画像処理 I 画像処理 II 卒業研究	特別研究 I 特別研究 II 生産システム特論 応用プログラミング		高等学校教諭2級 普通免許 (数 学)、第一種情 報処理技術者、 画像情報技術検 定3級準合格、国 際連合公用語英 語検定A級、色彩 検定1級、1級カ ラークラウド、 ネーター (商品 色彩)、実用英 語技能検定準1級	
	宮田 統馬	准教授	博士 (工学)	学級担任 (5CS) クラブ副顧問 (サッカー部) 学生担当 (情報工学科)	デジタル 信号処理	信号処理 (ME) 論理回路 I 論理回路 II デジタル回路設計 情報工学実験 V 情報工学実験 VI デジタル信号処理 I デジタル信号処理 II 卒業研究	生産システム特論 特別研究 I 特別研究 II 信号処理論 大規模情報処理		第三級ア マチュア 無線技 士、初級 システム アドミニ ストラ ータ	
	須志田 隆道	講師	博士 (理学)	学級担任 (1C) クラブ顧問 (サッカー部) 学校プロジェクト指導補佐 (全国高専プロコン) 研究委員	現象数学 学、計算錯 覚学、折り 紙幾何学	アルゴリズム論 I アルゴリズム論 II プログラミング応用 I プログラミング応用 II 数値計算 I 数値計算 II 地理情報システム概論 文書作成概論 I 文書作成概論 II 情報工学実験 III 情報工学実験 IV 卒業研究	生産システム特論 特別研究 I 特別研究 II 情報数学 数値解析 論文購読 I		高等学校 教諭専修 免許 (数 学)、中 学校教諭 専修免許 (数学)	
	松尾 貴哲	講師	修士 (文学)	クラブ副顧問 (モダンダンス部) 教務担当 (一般教育科・外国語) 国際交流委員	言語学、認 知語用論、 関連性理論	英語 選択英語 V (4年、5年)	英語 I		高等学校 教諭専修 免許 (英 語)	
	Marques Luis	准教授	修士 (社会科学)	国際交流センター長 IUS Coordinator 司牧委員 IUSプロジェクトリーダー	国際交流 (フ リビニと東チ モールにおける 技術教育)	英語	英語 II		普通会計 士、保健体 育科教員免 許、イタリ ア語、スベ イン語	
	大屋 博一	准教授	博士 (理学)	プレテック主事補 (1学年主任) クラブ顧問 (卓球部)	関数解析、非 線形偏微分方 程式、数理生 態学	基礎数学 I 解析学 I 代幾何学	数学特論 I 数学特論 II		高等学校教諭専 修免許 (数学) 中学校教諭専修 免許 (数学)	
	真島 裕樹	准教授	博士 (理学)	教務主事補 クラブ顧問 (天文部) 教務担当 (一般教育科・理科) 学生支援委員 (教務部) 教育規定プロジェクトメンバー	非平衡統計 力学、開放 量子系の理 論、熱場の 量子論	基礎物理 1 (1年) 基礎物理 I 基礎物理 II 自然科学概論 (AD) 卒業研究	物理学特論 I			
非 常 勤 教 員	野島 伸仁	非常 勤 講師	学士		英米文学		伝統文化特論	有	高等学校教諭 二級普通 免許 (英 語)	能楽師 (狂言 師)
	清水 哲也	非常 勤 講師	博士 (工学)		システム科学		情報ネットワーク特論			
	堤 一郎	非常 勤 講師	博士 (工学)		技術教育及び 技術史教育 産業技術史		技術史		高等学校教諭 一級普通免許 (工業) 職業訓練指導員 免許第 1 種 (機械科 能 4 分野)	
	雑賀 高	非常 勤 講師	博士 (工学)		環境エネルギー 工学		専攻演習 I 専攻演習 II		技術士 (機械分 野)	

3. その他担当教員の専門分野と担当授業科目

〇〇年5月1日現在

	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目（准学士課程）	担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格	備考
専 任 教 員										
非 常 勤 教 員										

4. 年間を通じて授業を担当しない教員の専門分野と過去の担当授業科目

〇〇年5月1日現在

	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	過去の担当授業科目（准学士課程）	過去の担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格	備考
専 任 教 員										
非 常 勤 教 員										

卒業（修了）者進路実績表 【サレジオ工業高等専門学校】

1. 卒業（修了）者の就職率（2020～2016年度）

2021年4月1日現在

(1) 就職希望者数

	2020年度					2019年度					2018年度					2017年度					2016年度																													
	准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程																								
学科・専攻名	AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC														
就職希望者数(人)	16	28	35	22	101	6					23	19	27	22	91	7					17	19	36	30	102	5					24	21	23	24	92	4					26	27	27	19	99	3				

(2) 就職者数

	2020年度					2019年度					2018年度					2017年度					2016年度																													
	准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程																								
学科・専攻名	AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC														
就職者数(人)	12	28	34	19	93	6					22	19	26	20	87	7					17	19	36	30	102	5					24	21	23	24	92	4					26	27	27	19	99	3				

(3) 就職率=就職者数/就職希望者数

	2020年度					2019年度					2018年度					2017年度					2016年度																													
	准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程																								
学科・専攻名	AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC					AD	EE	ME	CS	計	AC														
就職率(%)	75.0%	100%	97%	86%	92.1%	100%					95.7%	100%	96%	91%	95.6%	100%					100%	100%	100%	100%	100%	100%					100%	100%	100%	100%	100%	100%					100%	100%	100%	100%	100%	100%				

※ 学科・専攻名の略称

- 「AD」 = デザイン学科
- 「EE」 = 電気工学科
- 「ME」 = 機械電子工学科
- 「CS」 = 情報工学科
- 「●」 = ○○学科

「AC」 = 生産システム工学専攻

「●」 = ○○専攻

「●」 = ○○専攻

2. 卒業（修了）者の産業別就職状況（2020年度）

2021年4月1日現在

	就 職 者 数									
	AD学科	EE学科	ME学科	CS学科		合計	専攻科			合計
A. 農業、林業										
B. 漁業										
C. 鉱業、採石業、砂利採取業										
D. 建設業										
E. 製造業	3	7	14	2		26	1			1
F. 電気・ガス・熱供給・水道業		2	5			7				
G. 情報通信業		1	1	11		13	2			2
H. 運輸業、郵便業	1	2	2			5				
I. 卸売業・小売業	1	1				2				
J. 金融業・保険業										
K. 不動産業、物品賃貸業		1				1				
L. 学術研究、専門・技術サービス業	4	11	12	5		32	3			3
M. 宿泊業、飲食サービス業										
N. 生活関連サービス業、娯楽業		1				1				
O. 教育、学習支援業										
P. 医療、福祉										
Q. 複合サービス事業										
R. サービス業（他に分類されないもの）	2	1				3				
S. 公務（他に分類されるものを除く）	1					1				
T. 分類不能の産業		1				1				
合計	12	28	34	18		92	6			6

3. 卒業（修了）者の進学率（2020～2016年度）

2021年4月1日現在

(1) 進学希望者数

学科・専攻名	2020年度					2019年度					2018年度					2017年度					2016年度																																		
	准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程																													
	AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC																
進学希望者数(人)	17	9	17	17	60	5						12	10	18	15	55	3						14	8	6	18	46	8						8	3	9	12	32	7						10	7	12	17	46	1					

(2) 進学者数

学科・専攻名	2020年度					2019年度					2018年度					2017年度					2016年度																																		
	准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程																													
	AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC																
進学者数(人)	14	9	17	16	56	5						12	10	18	14	54	3						14	8	6	18	46	8						8	3	9	12	32	7						10	7	12	17	46	1					

(3) 進学率=進学者数/進学希望者数

学科・専攻名	2020年度					2019年度					2018年度					2017年度					2016年度																							
	准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程					准学士課程					専攻科課程																		
	AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC						AD	EE	ME	CS	計	AC					
進学率(%)	82.4%	100%	100%	94%	93.3%	100%						100%	100%	100%	93%	98.2%	100%						100%	100%	100%	100%	100%	100%						100%	100%	100%	100%	100%	100%					

※ 学科・専攻名の略称

- 「AD」=デザイン学科
- 「EE」=電気工学科
- 「ME」=機械電子工学科
- 「CS」=情報工学科
- 「●」=○○学科
- 「AC」=生産システム工学専攻
- 「●」=○○専攻
- 「●」=○○専攻

4. 卒業（修了）者の進学先（2020年度） 2021年4月1日現在

(1) 卒業者の進学先（2020年度）

大学・高等専門学校名	学部・専攻科名	学科・課程名	進学者数
電気通信大学大学院			1
早稲田大学大学院	情報生産システム研究科		1
都立産業技術大学大学院			1
法政大学大学院			1
東京都立職業能力開発センター			1
多摩美術大学	情報デザイン	情報デザインコース	1
武蔵野美術大学	造形	情報デザイン	1
武蔵野美術大学	造形	視覚伝達デザイン	1
日本大学	芸術学部	デザイン	2
日本大学	理工学部	建築	1
日本大学	理工学部	電気工学科	3
東京造形大学	造形	デザイン学科インダストリアルデザイン専攻領域	1
京都芸術大学	美術学部	美術工芸科総合造形コース	1
京都芸術大学	通信教育	写真コース	1
千葉大学	工学部	総合工学科デザインコース	1
豊橋技術科学大学	工学部	機械工学過程	1
長岡技術科学大学	工学部	電気電子情報工学過程	2
長岡技術科学大学	工学部	情報・経営システム工学	1
長岡技術科学大学	工学部	経営情報過程	1
東京都市大学	工学部	機械システム工学科	1
東京都市大学	知識工学部	情報科学科	1
和歌山大学	システム工学部	システム工学研究科	1
東京理科大学	理学部第二部	物理学科	1
湘南工科大学	工学部	情報工学科	1
電気通信大学大学院	情報系	情報数理工学	1
東京農工大学	工学部	知能情報システム工学	3
工学院大学	情報学部	システム数理学科	1
静岡大学	情報学部	情報科学科	1
東京国際工科専門職大学	工科学部	情報工学科	1
サレジオ工業高等専門学校	生産システム工学科		21
JFTD学園日本フラワーカレッジ			1
国立音楽院			1
お茶の水美術専門学校			1
バンタンデザイン研究所			1
日本児童教育専門学校			1
大学編入学者	計		30
専攻科進学者	計		21
大学院進学者	計		4
その他	計		6
総計			61

(2) 修了者の進学先 (2019年度)

大学名	研究科名	専攻名	進学者数
早稲田大学大学院			3
千葉大学			3
京都工芸繊維大学			1
東京家政大学			1
相模女子大学			1
東京造形大学			2
多摩美術大学			1
湘南工科大学			2
早稲田大学			1
東京電機大学			2
日本大学			3
北海道科学大学			1
工学院大学			3
長岡技術科学大学			6
東京工業大学			1
立命館大学			1
岩手県立大学			2
金沢大学			1
東京工科大学			2
サレジオ工業高等専門学校	生産システム工学科		15
東京アニメーター学院専門学校	イラストレーション学科		1
東京保育専門学校			1
文化服装学院	服飾研究科		1
森林たくみ塾			1
総計			56

チェック項目	該当URL	備考
【法令・評価基準要求項目】		
<input type="checkbox"/> 財務諸表	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure03.pdf	
<input type="checkbox"/> 自己点検・評価の公表状況	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/self_assessment.html	
【学校教育法施行規則第172条の2（〇〇年度～）に係る項目】		
①高専の教育上の目的及び三つの方針に関する情報		
<input type="checkbox"/> 学科ごとの教育上の目的	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure01.pdf	
<input type="checkbox"/> 専攻ごとの教育上の目的	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure01.pdf	
<input type="checkbox"/> 卒業の認定に関する方針	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/diploma_policy.html 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/diploma_policy.html	
<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び実施に関する方針	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/curriculum_policy.html 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/curriculum_policy.html	
<input type="checkbox"/> 入学者の受入れに関する方針	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/admission_policy.html 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/education/admission_policy.html	
②教育上の基本組織に関する情報		
<input type="checkbox"/> 学科の名称	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/departments/index.html	
<input type="checkbox"/> 専攻の名称	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/departments/index.html	
③教員及び教員組織に関する情報		
<input type="checkbox"/> 教員数	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 教員組織内の役割分担	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 年齢構成	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 男女別の人数	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 職別の人数	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 教員の保有学位、業績、職務上の実績	https://www.kenkyu.salesio-special.com/	
④学生に関する情報		
<input type="checkbox"/> 学科、専攻の学生定員	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure03.pdf	
<input type="checkbox"/> 学科、専攻の入学定員（編入学定員含む）	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/to_examinee/2022-senkoka-yoko.pdf	
<input type="checkbox"/> 入学者数、編入学者数	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure03.pdf	
<input type="checkbox"/> 在学者数	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 卒業者（修了者）数	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 進学者数	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 就職者数	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	
<input type="checkbox"/> 卒業後の進路（進学及び就職先の状況）	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure02.pdf	

チェック項目	該当URL	備考
⑤教育課程に関する情報		
<input type="checkbox"/> 授業科目の名称（学則の別表、授業科目一覧等）	準： 専：	
<input type="checkbox"/> 授業の方法及び内容並びに1年間の授業計画の概要（学期ごとのシラバス）	準： 専：	
⑥学修の成果に関する情報		
<input type="checkbox"/> 成績評価基準	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/13_seiseki_hyoka_kijyun-20190715 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/13_seiseki_hyoka_kijyun-20190715	
<input type="checkbox"/> 進級単位がある場合、進級認定基準（進級に必要な単位数を含む）	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/03_kyomu_syokitei-20190405.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/03_kyomu_syokitei-20190405.pdf	
<input type="checkbox"/> 卒業（修了）認定基準（卒業（修了）に必要な単位数（必修、選択、自由科目別）含む）	準： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakusoku-20210401.pdf 専： http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakusoku-20210401.pdf	
<input type="checkbox"/> 取得可能な称号	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_salesio/about_kousen.html	
⑦学習環境に関する情報		
<input type="checkbox"/> キャンパス概要	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure01.pdf	
<input type="checkbox"/> 運動施設の概要	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure01.pdf	
<input type="checkbox"/> 課外活動の情報（状況や使用施設等）	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/disclosure/2020-disclosure04.pdf	
<input type="checkbox"/> 学習環境、休憩環境	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/support_center/facility.html	
<input type="checkbox"/> 所在地、交通手段	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/access.html	
⑧学生納付金に関する情報		
<input type="checkbox"/> 授業料	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakuso	
<input type="checkbox"/> 入学料	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakuso	
<input type="checkbox"/> 入学検定料	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakuso	
<input type="checkbox"/> 学生寮等の宿舍の費用	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakuso	
<input type="checkbox"/> 教材購入費	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakuso	
<input type="checkbox"/> 施設利用料等の費用	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/regulations/00_gakuso	
⑨学生支援と奨学金に関する情報		
<input type="checkbox"/> 学生支援（修学支援、進路選択支援、心身の健康に係る支援、障害者支援、留学生支援など）	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_salesio/student_support_center	
<input type="checkbox"/> 奨学金の概要（奨学金の種類、要件、申し込み方法等）	http://www.salesio-sp.ac.jp/main/for_students/idx_scholarship.html	

外部評価

自己点検評価書

(2021 年度実施)

編集・発行

サレジオ工業高等専門学校

〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘 4-6-8

TEL 042-775-3020 (代表)

<http://www.salesio-sp.ac.jp/>